**『三体詩』　五言律詩**

**『三体詩』においては、五言律詩を、****①四実、②四虚、③前虚後実、④前実後虚、⑤一意、⑥起句、⑦結句、⑧詠物に区分しているこのうち、**

**⑤一意…首聯から尾聯まで一繋がりになっているもの**

**⑥起句…首聯に特徴の有るもの**

**⑦結句…尾聯に特徴が有るもの**

**⑤詠物…物を詠じたことに特徴が有るもの**

**であるが、①四実、②四虚、③前虚後実、④前実後虚においては、頷聯と頸聯に着目すると共に、実体のあるもの（景物）を述べている場合（典型的には写景）を「実」、実態のないもの（情思・作者の思い、感情）を述べているものを「虚」と呼び、**

**頷聯、頸聯とも「実」である詩を①「四実」、頷聯が「虚」、頸聯が「実」である詩を②前虚後実、頷聯が「実」で頸聯が「虚」で有るある詩を③前実後虚と呼んでいる。**

**『三体詩』収録の詩には、難解なものもあるが、『國譯漢文大成・三体詩』には、殆どの詩について、頷聯、頸聯の構成が記載されているので、律詩の作詩においては非常に参考になると考えられる。**

四実

早春遊望  早春遊望 　　　　　　　　　　　　　　　　　　杜審言

獨有宦遊人　　　　独り の人有りて

偏驚物候新　　　　に 驚く の新なるに

**雲霞出海曙　　　　雲霞 海を出でてけ**

**梅柳渡江春　　　　梅柳 江を渡りて春なり**

**淑氣催黃鳥　　　　淑気 黄鳥をし**

**晴光照綠蘋　　　　晴光 を照らす**

忽聞歌古調　　　　ち 古調を歌うを聞けば

歸思欲霑巾　　　　 巾をさんと欲す

【語釈】

○遊望…出遊して景色を眺望すること。○宦遊…故郷を離れてほかの地方に行く役人のこと。○物候…万物が気候に応じて移り変わること。○雲霞…雲と、かすみ。○曙…夜が明ける。○淑気…春の和気。○黄鳥…コウライうぐいす。○晴光…明るい日の光。○緑蘋…浮草。○古調…古風な調子の詩。○帰思…故郷に帰りたいと思う心。○巾…ハンカチ。○沾…涙でぬらすこと。

（参考文献）　『唐詩選』

遊少林寺 　　少林寺に遊ぶ　　　　　　　　　　　　　　　　沈佺期

長歌遊寶地　　　　長歌して宝地に遊び

徙倚對珠林　　　　として珠林に対す

**雁塔風霜古****雁塔 風霜り**

**龍池歲月深　　　　 歳月深し**

**紺園澄****夕霽　　　　紺園 を澄ましめ**

**碧殿下秋陰　　　　碧殿 秋陰を下す**

歸路煙霞晚　　　　帰路 の

山蟬處處吟　　　　 処々に吟ず

【語釈】

○少林寺…河南省河南府の崇山にある寺。○宝地…寺院。○徙倚…立ちもとほる。○珠林…寺院の中の林。○雁塔…寺院内の塔。○龍池…寺院内の池。○紺園…寺院内の園。○夕霽…夕方の雨の後の晴れ空。○碧殿…緑色の仏殿。○秋陰…秋の夕暮れ。○煙霞…靄と霞。

晚至華陰 　　晚に華陰に至る　　　　　　　　　　　　　　　皇甫曾

臘盡促歸心　　　　 尽きて 帰心を促し

行人及華陰　　　　行人 に及ぶ

**雲霞仙掌出　　　　雲霞** **仙掌より出で**

**松柏古祠深　　　　松柏 深し**

**野渡冰生岸　　　　野渡 氷岸に生じ**

**寒川燒隔林　　　　寒川　焼けて林を隔つ**

溫泉看漸近　　　　温泉　看て漸く近し

宮樹晚沈沈　　　　宮樹　に沈々

【語釈】

○華陰…陝西省華陰市。○臘…蝋燭。○帰心…帰りたいという気持。○仙掌…仙掌のような形をした華山（五嶽の一つ）。○野渡冰生岸…倒置法、氷が野にある渡し場の岸に生じる。○寒川燒隔林…倒置法、野火は寒い川と林を隔てて見る。○温泉…驪山の温泉宮（華清旧）。○沈沈…草木の茂っているさま。

經廃寶慶寺 　　を　　　　　　　　　　　　　　唐　　司空曙

黃葉前朝寺　　　　黄葉 前朝の寺

無僧寒殿開　　　　僧無くして 寒殿開く

**池晴龜出曝　　　　池晴れて 亀 出でてし**

**松暝鶴飛迴　　　　松くして 鶴 飛びる**

**古井碑橫草　　　　古井 碑 草に横わり**

**陰廊畫雜苔　　　　陰廊 画 苔にる**

禪宮亦銷歇　　　　禅宮 亦た

塵世轉堪哀　　　　 た 哀むに堪えたり

【語釈】

○寶慶寺…則天武后が建てた寺で廃寺となっていた。○前朝寺…寶慶寺。○寒殿…荒涼として落ちぶれた寺院。○曝…甲羅ぼし。○陰廊…暗い廊下。○禅宮…寺院。○銷歇…衰え落ちぶれること。○塵世…俗世間。

次北固山下 　　北固山の下にる　　　　　　　　　　　唐　　王　灣

客路青山外　　　　 青山の

行舟綠水前　　　　行舟 緑水の前

**潮平兩岸闊　　　　潮平かにして 両岸き**

**風正一帆懸　　　　風正しくして 一帆る**

**海日生****殘夜****海日 残夜に生じ**

**江春入舊年　　　　江春 旧年に入る**

郷書何處達　　　　 何れの処にか 達せん

歸雁洛陽邊　　　　帰雁 洛陽の

【語釈】

○北固山…江蘇省鎮江市の東北にある山。○客路…旅路。○風正…順風。○懸…帆を開く。○海日…海から昇る太陽。○殘夜…夜がまさに尽きようとするとき。○江春…江上の春。○旧年…前年。○郷書…故郷への手紙。○結句…書を伝えるという雁は故郷の洛陽のあたりに向かって帰る。

岳陽晚景 　　岳陽の晚景　　　　　　　　　　　　　　　唐　　張　均

晚景寒鴉集　　　　晩景 集り

秋聲旅雁歸　　　　秋声 帰る

**水光浮日去　　　　水光 日を浮べて去り**

**霞彩映江飛　　　　 江に映じて飛ぶ**

**洲白蘆花吐　　　　洲 白くして 蘆花を吐き**

**園紅柿葉稀　　　　園 紅にして 稀なり**

長沙卑濕地　　　　長沙 卑湿の地

九月未成衣　　　　九月 未だ 衣を成さず

【語釈】

○岳陽…湖南省岳暘市。○寒鴉…晩秋から冬にかけての烏。○秋声…秋の気配を感じさせる物音。○霞彩…夕焼けの彩り。○長沙…湖南省長沙市。○成衣…夏服を脱ぎ、冬服を着る。

晚發五渓 　　晚に五渓を発す　　　　　　　　　　　　　　　岑　參

客厭巴南地　　　　は厭う の地

鄉鄰劒北天　　　　鄉はる の天

**江村片雨外　　　　江村 片雨の**

**野寺夕陽邊　　　　 の**

**芋葉藏山徑　　　　 山径をし**

**蘆花間****渚田　　　　蘆花 にわる**

舟行未可住　　　　舟行 未だまるべからず

乘月且須牽　　　　月に乗じ 且つらくくべし

【語釈】

○五渓…湖南省懐化市一帯にある五つの渓。○客…旅人。作者。○巴南…五溪のあたり。○劒北…。○片雨…局地的に降る雨。○渚田…渚の側の田。未可住…出発すべきである。○乘月…月明かりを利用して。○牽…曳き船を曳く。

仲夏江陰官舍寄裴明府 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　李嘉祐

仲夏 の官舍にてに寄す

萬室邊江次　　　　万室 江にしてし

孤城對海安　　　　孤城 海に対してし

**朝霞晴作雨　　　　 晴れて雨をし**

**濕氣晚生寒　　　　湿気 に寒を生ず**

**苔色侵****衣桁　　　　 をし**

**潮痕上井欄　　　　 に上る**

題詩招茂宰　　　　詩を題して を招き

思爾欲辭官　　　　思う が官を辞さんと欲するを

【語釈】

○仲夏…陰暦五月。○江陰…江蘇省無錫市の江陰市。○裴明府…不祥、明府は県令の称号。○萬室…万家。○邊江次…江に沿って次第にある。○孤城…官舎。○安…安全である。○苔色…カビの色。○衣桁…衣を掛ける横木。○井欄…井戸の闌干。○招…留任を勧告する。○茂宰…県官の尊称。

山行 　　　　　　山行　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　殷　遙

寂歷青山暁　　　　たり 青山の暁

山行趣不稀　　　　山行 ならず

**野花成子落　　　　野花 を成して落ち**

**江燕引雛飛　　　　江燕 雛を引いて飛ぶ**

**暗草薰苔徑　　　　暗草 にじ**

**晴楊拂****石磯　　　　 を払う**

俗人猶語此　　　　俗人 猶お を語る

余亦轉忘歸　　　　余も亦た た 帰るを忘る

【語釈】

○寂歷…ひっそりとして物寂しいさま。○不稀…少なからず。○暗草…名前を知らない草。○苔徑…苔の生えた道。○石磯…石の磯。○此…山中の趣味。○轉…ますます。

送陸明府之盱眙 　 のに之くを送る　　　　　　　　　崔　峒

陶令之官去　　　　陶令 官にきて去る

離愁慘別魂　　　　 をましむ

**白煙橫****海戍　　　　白煙 に横わり**

**紅葉近淮村　　　　紅葉 に近し**

**遠浪搖山郭　　　　遠浪** **山郭を揺がし**

**平蕪到縣門　　　　 県門に到たる**

政成堪吏隱　　　　成って するに堪えたり

免負府公恩　　　　府公の恩に くことを免る

【語釈】

○陸明府…不祥、○盱眙…泗州（安徽省東北部および江蘇省西部にまたがる地域に設置された）。○陶令…陶淵明、陸明府をなぞらえる。○離愁…離別の愁い。○海戍…海を守る守衛所。○淮村…淮水（河南省に源を発し、安徽省と江蘇省を流れる川。○山郭…山村。○平蕪…原野。○縣門…盱眙の県境の門。○吏隱…官となっても隠者の志を持ち続けること。○府公…州の長官。

【構成】

○首聯は離恨を説き起こし、頷聯、頸聯は道中の景を述べ、尾聯は友の為の訓戒を述べる。

溪南書斎　　　　　溪南の書斎　　　　　　　　　　　　　 　　　于　鵠

茅屋住來久　　　　茅屋　し来たること久し

山深不閉門　　　　山深くして 門を閉ず

**草生垂井口　　　　草は生じて に垂れ**

**花發擁****籬根　　　　花は発きて をす**

**入院將雛鳥　　　　院に入りて をいる鳥**

**攀蘿抱子猨　　　　をじて 子を抱く猨**

曾逢異人說　　　　曽つて 異人の説に逢う

風景似桃源　　　　風景 桃源に似たり

【語釈】

○茅屋…茅吹きの粗末な家。○籬根…垣根の根本。○院…書院。○異人…漁人。○桃源…桃源郷（『桃花源記』）

【構成】

○頷聯は非情、頸聯は有情。○題目は書斎であっても、書斎のことは言わず書斎の外のことを示す。

泊揚子岸 　　揚子の岸に泊す　　　　　　　　　　　　　　　　祖　詠

纔入維揚郡　　　　にに入れば

郷關北路遙　　　　 北路 なり

**林藏初霽雨　　　　林は蔵す 初めてるる雨**

**風退欲歸潮　　　　風は退く 帰らんと欲する潮**

**江火明沙岸　　　　江火 沙岸に明かに**

**雲帆礙浦橋　　　　 にげらる**

客衣今日薄　　　　 今日薄く

寒氣近來饒　　　　寒気 近来し

【語釈】

○揚子…長江。○維揚郡…江蘇省揚州市。○郷關…故郷。○雲帆…雲のように大きな帆の舟。○礙浦橋…浦にかけた橋に妨げられて通過することが出来ない。○客衣…旅衣。○近來…近ごろ。○饒…多と同意。

【構成】

○第三句…江上の景。○第四句…江中の景。○頸聯…水中の景。

新秋寄樂天　　　　 新秋 楽天に寄す 　　　　　　　　　　　　　　劉禹錫

月露發光彩　　　　月露 光彩を発す

此時方見秋　　　　此の時 に秋を見る

**夜涼金氣應　　　　夜 涼くして 金気応じ**

**天靜火星流　　　　天 静かにして 火星流る**

**蟲響偏依井　　　　虫 響いて に に依り**

**螢飛直過樓　　　　蛍 飛びて 直ちに楼を過ぐ**

相知盡白首　　　　相知るは 尽く白首

清景復追遊　　　　 復た せんや

【語釈】

○樂天…白居易。○月露…月に照らされた露。○金気…秋の気配、冷涼。○白首…白髪頭。○清景…清らかな景色。○追遊…共に鑑賞し共に楽しむ。

（白居易は左遷されて杭州（浙江省杭州市）に、劉禹錫は左遷されて朗州（湖南省常徳市）にあった。）

【構成】

○首聯、頷聯、頸聯は秋を述べ、尾聯は自分の思いを述べる。

秋日送客至潜水駅　　　 秋日 を送り潜水駅に至る 　　　劉禹錫

候吏立沙際　　　　 に立ち

田家連竹溪　　　　田家 に連なる

**楓林社日鼓　　　　楓林 社日の**

**茅屋午時雞　　　　茅屋 午時の**

**雀噪晚禾地　　　　雀は噪ぐ の地**

**蝶飛秋草畦　　　　蝶は飛ぶ 秋草の**

驛樓宮樹近　　　　駅楼 宮樹近く

疲馬再三嘶　　　　 再三く

【語釈】

○潜水駅…浙江省杭州市にある宿場町。○候吏…駅吏。○社日…春と秋の土地の神を祀る祭り。ここでは秋社。○茅屋…茅吹きの家。○晚禾地…稲の実った晩秋の地。○驛樓…二階建ての宿舎。○宮樹…都（呉の都）の樹。

得日観東房　　　　の東房　 　　　　　　　　　　　　　　李　質

曾入桃溪路　　　　て 桃渓の路に入れば

仙源信少雙　　　　仙源 にびし

**洞霞飄素練　　　　 をし**

**壁蘚畫陰窗** **陰窓にく**

**古木疑撐月　　　　古木 月をうかと疑い**

**危峰欲墮江　　　　危峰 江に堕ちんと欲す**

自吟空向寂　　　　ら吟じ 空しく に向わんとす

誰共倒秋釭　　　　誰と共にか を倒さん

○得日観…道士の住居（觀）の名。○桃溪路…『桃花源記』の桃源郷への道、得日観への道になぞらえる。○仙源…道教の仙人の住所。得日観のこと。○少雙…比べられるものが少ない。○素練…白色の絹のカーテン。○壁蘚…壁に生えた苔。○陰窓…位窓。○危峰…険しい峯。○寂…寂寞。○釭…油つぎ、酒杯の代用。

北固晚眺　　　　　の晚眺 　　　　　　　　　　　唐　　竇　常

水國芒種後　　　　水国 の後

梅天風雨涼　　　　梅天 風雨涼し

**露蠶開晚簇　　　　 を開き**

**江燕語危檣　　　　 をる**

**山址北來固　　　　 固く**

**潮頭西去長　　　　潮頭 長し**

年年此登眺　　　　年々 にす

人事幾銷亡　　　　人事 幾ばくかす

【語釈】

○北固…北固山。江蘇省鎮江市の東北にある山。○晚眺…夕方の眺望。○芒種…旧暦五月。○梅天…梅雨の天気。○露蠶…屋外で飼育されている蚕。○晚簇…。○危檣…高い帆柱。○山址…山の麓。○登眺…登って眺望する。○人事…人のしわざ。○銷亡…消失。

送朱可久歸越中　　朱可久が越中に帰るを送る 　　　　　　　賈　島

石頭城下泊　　　　に泊す

北固暝鐘初　　　　北固 の

**汀鷺衝潮起　　　　 をいて起ち**

**船窗過月虛　　　　船窓 月を過ごしてなり**

**吳山侵越衆　　　　呉山　越を侵してく**

**隋柳入唐疎　　　　隋柳 唐に入りてなり**

日欲供調膳　　　　日に 調膳を供せんと欲す

辟來何府書　　　　し来たるは 何れの府の書ぞ

【語釈】

○朱可久…朱慶餘、越州(浙江省紹興市)の人，敬宗寶歷二年の進士。秘書省校書郎となる。○越中…浙江省紹興市。○石頭城…南京市にあった城郭。○北固…北固山、江蘇省鎮江市の東北にある山。○暝鐘…晩鐘。○汀鷺…渚にいるサギ。○供調膳…親に膳を整えて差し上げる。○辟來…（孝行）をすると名が皇帝に知れてお召しがある。

【構成】

○首聯、頷聯、頸聯は道中の事を述べ、尾聯は自分の志を示す。

新安江行　　　　　新安江行 　　　　　　　　　　　　　　　　　　章八元

江源南出永　　　　江源 南に出でて永く

野渡暫維梢　　　　野渡 暫くをぐ

**古戍懸魚網　　　　 魚網をけ**

**空林露鳥巢　　　　空林 をす**

**雪晴山脊現　　　　雪晴れて 現われ**

**沙淺****浪痕交　　　　浅くして 交わる**

自笑無媒者　　　　自ら笑う 無媒の者

逢人作解嘲　　　　人に逢い を作ることを

【語釈】

○新安江…安徽省黄山市新安江。○江源…川のみなもと。○野渡…野原にある渡し場。○梢…帆綱。○古戍…古い物見櫓。○空林…人気の無い葉の落ちた林。○山脊…山の稜線。○浪痕…波が曳いた痕の紋。○解嘲…人のあざけりを弁解する。漢の揚雄の故事（漢書）。

三月五日汎長沙東湖　　三月五日 長沙の東湖にぶ 　　　　　　　李羣玉

上巳餘風景　　　　風景を余す

芳辰集遠坰　　　　 に集る

**湖光迷翡翠　　　　湖光 を迷わし**

**草色醉****蜻蜓　　　　草色 を酔わす**

**鳥弄桐花日　　　　鳥は 桐花の日をし**

**魚翻穀雨萍　　　　魚は のを翻えす**

從今留勝會　　　　より 勝会を留めば

誰看畫蘭亭　　　　誰か看ん

【語釈】

○長沙東湖…湖南省長沙市の東湖。○上巳…上巳の節句。旧暦三月三日。○芳辰…（春の）景色の美しい時候。○遠坰…遙かに遠い郊野。○翡翠…かわせみ。○蜻蜓…とんぼ。○弄…楽しむ。○穀雨…二十四節季の一つ、淸明後十五日。○萍…浮き草。○勝會…盛大な宴会。○留…後世に伝わるようにする。○畫蘭亭…王羲之が開いた蘭亭の会を画いた絵。

【構成】

○首聯も対句。○第三句、第六句は水中の景。第四句、第五句は地上の景（互鎖の変格）

送人入蜀 人の蜀に入るを送る　　　　　　　　　　　　　李　遠

蜀客本多愁　　　　蜀客 多し

君今是勝遊　　　　君 今 にす

**碧藏雲外樹　　　　碧は蔵す 雲外の樹**

**紅露驛邊樓　　　　紅はす 駅辺の楼**

**杜于呼名語　　　　 名を呼んで語り**

**巴江****學字流　　　　巴江 字を学んで流る**

不知煙雨夜　　　　知らず 煙雨の夜

何處夢刀州　　　　何れの処にか を夢みん

【語釈】

○蜀客…蜀から来た旅人。○勝遊…景勝地を繞って遊ぶ。○杜于…ホトトギス。蜀の望帝（名は杜于）が死んでその魂がホトトギスになったという伝え。○學字流…巴という字を学んだように、曲がりくねって流れる。○煙雨…霧雨。○夢刀州…栄転して蜀の益州の刺史になること。「刀州夢」（晉書、王濬傳）。

【構成】

○頷聯、頸聯は蜀の事を述べ、首聯、尾聯は人のことを述べる。

七里灘 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　許　渾

天晚日沈沈　　　　天れて 日

歸舟繫柳陰　　　　帰舟 にぐ

**江村平見寺　　　　江村 にして寺を見**

**山郭遠聞砧　　　　山郭 遠くしてを聞く**

**樹密猿聲響　　　　樹密にして猿声響き**

**波澄鴈影深　　　　波澄んで　鴈影深し**

榮華暫時事　　　　栄華　暫時の事

誰識子陵心　　　　誰か識らん　子陵の心

【語釈】

七里灘…浙江省権徳市の近くにある早瀬。沈沈…奥深いさま、静かなさま。江村…川辺の村。山郭…山の街。子陵…厳光のこと、光武帝の友人であったが、光武帝が即位しても招きに応ぜず、七里灘に隠棲した。

孤山寺 　　　　　孤山寺　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　張　祜

樓臺聳碧岑　　　　楼台 碧岑に聳え

一徑入湖心　　　　一径 湖心に入る

**不雨山長潤　　　　雨ならずして 山 長く潤い**

**無雲水自陰　　　　雲くして 水 自ら陰る**

**斷橋荒蘚合　　　　断橋 荒蘚合し**

**空院落花深　　　　空院 落花深し**

猶憶西窗夜　　　　猶お憶う西窓の夜

鐘聲出北林　　　　鐘声 北林より出でしことを

【語釈】

○孤山…浙江省杭州市の名勝、西湖の中にある山。○碧岑…青緑色の峯。○長…つねに。○斷橋…弧山と岸をつなぐ橋。○荒蘚…荒い苔。○空院…人気のない部屋。○西窗…寝室。

惠山寺　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　張　祜

舊宅人何在　　　　旧宅 人 にか在る

空門客自過　　　　空門 自ら過ぐ

**泉聲到池盡　　　　泉声 池に到りて尽き**

**山色上樓多　　　　山色 楼に上りて多し**

**小洞穿斜竹　　　　小洞 を穿ち**

**重堦夾細莎　　　　 をむ**

殷勤望城市　　　　に 城市を望めば

雲水暮鐘和　　　　雲水 暮鐘に和す

【語釈】

○惠山寺…江蘇省無錫市の郊外の惠山にある寺。○舊宅…古い建物。○山色…山の気配。○斜竹…斜めに生えた竹。○重堦…重なった階段。○細莎…細いはまなすげ。○殷勤…心を込めてするさま。

登蒲澗寺後二巖　　後のに登る 　　　　　　　　　　李羣玉

五仙騎五羊　　　　五仙 五羊に騎りて

何代降茲鄉　　　　何れの代か の鄉にる

**澗有堯時****韭　　　　には の有り**

**山餘****禹日糧　　　　山には のを余す**

**樓臺籠海色　　　　楼台** **海色をめ**

**草樹發天香　　　　草樹** **天香を発す**

浩笑煙波裏　　　　 す煙波の裏

浮溟興甚長　　　　に浮びて 興 甚だ長し

【語釈】

○蒲澗寺…広州府（広東省広州市一帯）の寺。○起句…『寰宇記』『列仙傳』。○茲鄉…広州府。○堯時…堯帝が天下を収めていた時代。○韭…菖蒲。○禹日糧…藤の木。『南越誌』禹が藤の根を採って糧となし、饑民を救った。○浩笑…高笑い。○海色…海面が作り出す景色。○天香…芳香の美称。○煙波…靄のかかった水面。○溟…蒼溟、蒼く薄暗い。海。

送僧還南海 　　僧の南海に還るを送る　　　　　　　　　　　李　洞

春往海南邊　　　　春に海南のに往き

秋聞半夜蟬　　　　秋に半夜の蝉を聞く

**鯨吞洗鉢水　　　　鯨は 鉢を洗う水をみ**

**犀觸點燈船　　　　は 灯を点ずる船に触る**

**島嶼分諸國　　　　 諸国を分かち**

**星河共一天　　　　 一天を共にす**

長安却迴日　　　　長安 の日

松偃舊房前　　　　松はす　旧房の前

【語釈】

○僧…雲卿上人、河南省新故市の人、韓愈の祖父。○南海…河南省。○半夜…真夜中。○鉢…僧食を入れる鉢。食後水で洗う。○犀…水犀。月を喜ぶ性質がある。○島嶼…島々。○却迴…戻ってくる。○偃…倒れる。玄奘三蔵が西域に行ったとき、松の枝が西に倒れ、帰ったとき東に倒れたという故事。

【構成】

○交股格…第三句と第五句は昼景、第四句と第六句は夜景。

鄠北李生舍 　　の李生の舍　　　　　　　　　　　　唐　　李　洞

圭峰秋後夜　　　　 秋後の夜

亂葉落寒墟　　　　乱葉 より落つ

**四五百竿竹　　　　四五百竿 の竹**

**二三千卷書　　　　二三千巻 の書**

**雲深猿盜栗　　　　雲深くして 猿 栗を盗み**

**雨霽螘沾蔬　　　　雨霽れて にす**

只隔門前水　　　　只だ 門前の水を隔てて

如同萬里餘　　　　万里余に す

【語釈】

○鄠…陝西省西安市の一部。○李生…不祥。○圭峰…終南山の別峯。○寒墟…寒空。○蔬…野菜として食用出来る植物。○如同…同じようである。

塞上 　　　　　 塞上　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　司空圖

萬里隋城在　　　　万里 在り

三邊虜氣衰　　　　三辺 衰う

**沙填孤障角　　　　沙はむ の**

**燒斷故關碑　　　　は断つ 故関の碑**

**馬色經寒慘　　　　馬色 寒を経てみ**

**鵰聲帶晚悲　　　　 を帯びて悲し**

將軍正閑暇　　　　将軍 正に

留客換歌辭　　　　客を留めて に換う

【語釈】

○萬里隋城…隋によって修復された万里の長城。○三邊…南蛮、北狄、西戎。○虜氣…周辺国が中国を侵そうとする気。○孤障…孤立した城塞。○燒斷…（太平の世なので）かがり火を焚くこともない。○鵰…猛禽類、屍肉を食う。○換歌辭…軍事を歌辞に変える。

寄永嘉崔道融　　　のに寄す　　　 　　　　　　　司空圖

旅寓雖難定　　　　 定め難しとも

乘閑是勝遊　　　　に乗じて是に勝遊す

**碧雲蕭寺霽　　　　碧雲 る**

**紅樹****謝村秋　　　　紅樹 秋なり**

**戍鼓和潮暗　　　　 潮に和して暗く**

**船燈照島幽　　　　船灯　島を照らして幽なり**

詩家多滯此　　　　詩家 多く にる

風景似相留　　　　風景　むるに似たり

【語釈】

○永嘉…永嘉州（浙江省永嘉県）。○崔道融…不祥。○旅寓…旅の中での仮住まい。○勝遊…心にかなった遊びをする。○蕭寺…寺院。○謝村…謝霊運が住んで居た村。○戍鼓…兵営で鳴らす太鼓。○滯…滞留する。

泊靈溪館　　　　　に泊す 　　　　　　　　　　　　　　鄭　巢

孤吟疎雨絕　　　　孤吟 疎雨 絶ゆ

荒館亂峰前　　　　荒館 乱峰の前

**曉鷺棲危石　　　　 危石に棲み**

**秋萍滿敗船　　　　 敗船に満つ**

**溜從華頂落　　　　は 華頂り落ち**

**樹與赤城連　　　　樹は と連がる**

已有求閑意　　　　已に を求むる意有り

相期在暮年　　　　すは 暮年に在り

【語釈】

○靈溪館…不祥、靈溪は渓の美称。○疎雨…疎らな雨。○危石…人が見て危ないと思うような岩。○秋萍…秋の浮き草。○敗船…廃船。○溜…滝のこと。○華頂…浙江省台州市の華頂峯。○赤城…浙江省台州市の赤城峰。○求閑意…隠棲の意。○相期…期待する。○暮年…晩年

甘露寺 甘露寺 　　　　　　　　　　　　　　　孫　魴

寒暄皆有景　　　　 皆 景有り

孤絶畫難形　　　　孤絶 画けども 形どり難し

**地拱千尋嶮　　　　地は 千尋のをし**

**天垂四面青　　　　天は四面のにる**

**晝燈籠雁塔　　　　昼灯 雁塔に籠め**

**夜磬徹漁汀　　　　 漁汀にる**

最愛僧房好　　　　最も愛す 僧房の好きを

波光滿戸庭　　　　波光 に満つ

【語釈】

○甘露寺…江蘇省鎮江市の北固山の上にある山。○寒暄…四時。○孤絶…高く聳える。○拱…とりまく。○雁塔…甘露寺にある塔の名。○夜磬…夜鳴らす磬（への字型の打楽器）の音。

江行　　　　　　　 江行 　　　　　　　　　　　　　　　　　李咸用

瀟湘無事後　　　　瀟湘 無事の後

征棹復嘔啞　　　　 た

**高岫留斜照　　　　 斜照を留め**

**歸鴻背****落霞　　　　 落霞にく**

**魚依沙岸草　　　　魚は　沙岸の草に依り**

**蝶寄洑流槎　　　　蝶は　のに寄る**

共說干戈苦　　　　共に　説くの

汀洲減釣家　　　　 釣家を減ずと

【語釈】

○瀟湘…湖南省の地。○無事後…兵乱が終わった後。○征棹…船遊びの櫂の音。○復…再び。○嘔啞…喧しいさま。○高岫…山の極めて高いところ。○斜照…夕陽の光。○落霞…夕焼け。○洑流…逆流。○槎…浮き草。○干戈…戦乱。○汀洲…水中の中洲。

春日野望 　　　　　春日野望 　　　　　　　　　　　　　　　　　李　中

野外登臨望　　　　野外 登臨して望めば

蒼蒼煙景昏　　　　蒼々として 煙景昏し

**暖風醫病草　　　　暖風 病草を医し**

**甘雨洗荒村　　　　甘雨 荒村を洗う**

**雲散天邊影　　　　雲は散ず 天辺の影**

**潮迴島上痕　　　　はる 島上の痕**

故人不可見　　　　故人 見るべからず

倚杖役吟魂　　　　杖に倚りて 吟魂を役す

【語釈】

○野望…野原の眺め。○登臨…高いところに登って下を眺望する。○蒼蒼…天の青々としたさま。○煙景…霞のかかった景色。○病草…冬にいたんだ草。○甘雨…好時の雨、慈雨。○雲散…賊軍が去ったこと。○天邊…地平線。○吟魂…詩人の魂。

勝果寺　　　　　　 勝果寺 　　　　　　　　　　　　　　　　　處　默

路自中峰上　　　　路は 中峰より上る

盤回出薜蘿　　　　して を出ず

**到江呉地盡　　　　江に到りて 呉地尽き**

**隔岸越山多　　　　岸を隔てて 越山多し**

**古木叢青靄　　　　古木 をめ**

**遙天浸白波　　　　 白波をす**

下方城郭近　　　　下方 城郭近し

鐘磬雜笙歌　　　　 をう

【語釈】

○勝果寺…浙江省杭州城南の鳳凰山にある寺。○中峰…山の中腹あたり。○盤回…めぐりめぐること。○薜蘿…かづら等の茂。○江…銭塘江。○呉地…現在の江蘇省の地方。○越…現在の浙江省の地方。○遙天…遙かな空。○鐘磬…鐘と磬（への字型の楽器）の音。○笙歌…笛の音と歌声。

（参考文献）　『唐詩選』

靜林寺 　　　　　 静林寺　　　　　　　　　　　　　　　　　　　僧靈一

靜林溪路遠　　　　静林 渓路遠し

蕭帝有遺蹤　　　　 有り

**水擊羅浮磬　　　　水は のをち**

**山鳴****于闐鐘　　　　山は の鐘を鳴らす**

**燈傳三世火　　　　灯は伝う 三世の火**

**樹老五株松　　　　樹は老ゆ 五株の松**

無數煙霞色　　　　無数 煙霞の色

空聞昔臥龍　　　　空しく聞く 昔の臥竜

【語釈】

○靜林寺…湖北省襄陽市にある寺。梁の武帝の即位前の住居。○蕭帝…梁の武帝。○遺蹤…遺跡。○羅浮磬…羅浮山（広東省増城県北東にある山）から出た石で出来た磬（石で出来たへの字型の楽器）。○于闐…中国の西域にあったオアシス都市国家。現在の中国新疆ウイグル自治区ホータン県。この国の鐘は風が吹くと独りでに鳴るという伝説があった。○三世…過去、現在、未来。○煙霞…靄と霞。○昔臥龍…昔、淵に住んでいた龍。

秋夜同梁鍠文宴　　秋夜 とに宴す 　　　　　　　　　　錢　起

客到衡門下　　　　客は到る の下

盃香蕙草時　　　　杯は香る の時

**好風能自至　　　　好風　くら至る**

**明月不須期　　　　明月 く期すべからず**

**秋水翻荷影　　　　秋水 を翻えし**

**晴霜脆柳枝　　　　 柳枝をくす**

微官是何物　　　　微官 是れ何物ぞ

計可廢吟詩　　　　 吟詩を廃せん

【語釈】

○梁鍠…不詳、天宝年間の人。○衡門…上に横木を渡しただけの粗末な門、冠木門。○蕙草…香草の一種。○不須期…期待しないでも自然に登ってくる。○荷影…蓮の葉。○脆…脆弱。○是何物…反語、軽んずる意味。○計可…反語、どうして～しようか。

望秦川　　　　　　秦川を望む　　　　　　　　　　　　　　 李　頎

秦川朝望迥　　　　秦川 朝望なり

日出正東峯　　　　日は出ず 正東の峯

**遠近山河淨　　　　遠近 山河浄く**

**逶迤城闕重　　　　として 重し**

**秋聲萬戸竹　　　　秋声 万戸の竹**

**寒色五陵松　　　　寒色 五陵の松**

客有歸歟嘆　　　　客にの嘆き有り

悽其霜露濃　　　　として 霜露なり

【語釈】

○秦川…長安一帯。○正東…真東。○逶迤…うねうねと曲がって長く続くさま。○城闕 … 城門、転じて宮殿。○万戸…長安の家々を指す。○秋聲…秋の気配。○寒色…冬げしき。○五陵…漢の高祖以下五帝の陵墓、長安の北郊にあった。○客…旅人、作者自身を指す。○歸歟…故郷へ帰りたいと言う思い。「帰らん歟」。歟…助辞、「か」と読む、多くは「與」（与）で代用する。悽其…寒風の形容。其は助辞。霜露…霜と露。

（参考文献）　『唐詩選』

池上 　　　　　　池上　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　白居易

嫋嫋涼風動　　　　として 涼風動き

淒淒寒露零　　　　として つ

**蘭衰花始白　　　　蘭 衰えて 花 始めて白く**

**荷破葉猶青　　　　 破れて 葉 猶お青し**

**獨立棲沙鶴　　　　独り立ち 沙にむ鶴**

**雙飛照水螢　　　　双飛す 水を照らす蛍**

若爲寥落境　　　　んぞ の境

仍值酒初醒　　　　お　酒の初めてむるにう

【語釈】

○嫋嫋…風のそよぐさま。○淒淒…寂しく冷たいさま。○零…落ちる。○荷…蓮の花。○若爲…「いかんぞ」と読み、「どのように」「いかにして」「どれほど」などの意。○寥落…落ちぶれたさま。

（参考文献）　『新釈漢文大系　白氏文集（九）』

西陵夜居 西陵夜居 呉　融

寒潮落遠汀　　　　寒潮 に落ち

暝色入柴扃　　　　 に入る

**漏永****沈沈靜　　　　漏 永くして として静に**

**燈孤****的的清　　　　灯 孤にして として清し**

**林風移宿鳥　　　　林風** **宿鳥を移し**

**池雨****定流螢　　　　池雨 流蛍定まる**

盡夕成愁絶　　　　 を成す

啼蛩莫近庭　　　　 庭に近ずくかれ

【語釈】

○西陵…不祥。○落…潮が引く。○暝色…暗い色。○柴扃…柴門、粗末な家。○漏…水時計。○沈沈…奥深く静かなさま。○的的…明らかなさま。○宿鳥…宿っている鳥。○定…一カ所に集まる。○盡夕…夜通し。○愁絶…愁いの激しいこと。○啼蛩…啼いているキリギリス。

旅遊傷春　　　　　旅遊 春を傷む 　　　　　　　　　　　　　　李昌符

酒醒郷關遠　　　　酒 醒めて 遠し

迢迢聽漏終　　　　として の終るを聴く

**曙分林影外　　　　は分かる の**

**春盡雨聲中　　　　春は尽く 雨声の**

**鳥倦江村路　　　　鳥はむ 江村の路**

**花殘野岸風　　　　花は残る 野岸の風**

十年成底事　　　　十年 をか成す

羸馬厭西東　　　　 西東をう

【語釈】

○旅遊…旅行中。○郷關…故郷。○迢迢…夜が更けてゆくさま。遙かなさま。○底事…何事。○羸馬…痩せた馬。

春山 　　　　　　春山　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　貫　休

重疊太古色　　　　たり　太古の色

濛濛花雨時　　　　たり 花雨の時

**好山行恐盡　　　　好山 行ゆく 尽くるを恐れ**

**流水語相隨　　　　流水 語りて う**

**黑壤生紅朮　　　　 を生じ**

**黃猨領白兒　　　　 白児を領す**

因思石橋月　　　　って思う 石橋の月

曾與道人期　　　　て 道人と期せしことを

【語釈】

○重疊…たたみのように重なること。○濛濛…薄暗いさま。○花雨…春雨。○黑壤…黒い肥えた土。○紅朮…赤い野草。○因…従って、そこで。○石橋…天台山の景勝の地。○道人…道を身につけた人。○期…約束する。

送懷州呉別駕 　　のを送る　　　　　　　　　　　　　岑　參

灞上柳枝黃　　　　灞上 柳枝 黄なり

壚頭酒正香　　　　 酒 正にし

**春流飲去馬　　　　春流 にい**

**暮雨濕行裝　　　　暮雨 をす**

**驛路通函谷　　　　駅路 函谷に通じ**

**州城接太行　　　　州城 太行に接す**

覃懷人總喜　　　　覃懐人総べて喜ぶ

別駕得王祥　　　　別駕王祥を得たりと

【語釈】

○懷州…河南省焦作市沁陽市。○呉別駕…不祥。別駕は刺史の巡察に随行する官。○灞上…陝西省西安市の東にあった宿場町。○壚頭…酒屋。○太行…山の名、河南省西北部、山西省東部、河北省西部にある。○州城…懷州の刺史が駐在する町。○覃懷…河南省新鄉市新鄉縣。○王祥…魏末西晉の人、母に孝行して有徳の人として名高い。呉別駕をなぞらえている。

高官谷贈鄭鄠 　　にてに贈る　　　　　　　　　　　岑　參

谷口來相訪　　　　谷口より りて う

空齋不見君　　　　 君を見ず

**澗花然暮雨　　　　 暮雨にえ**

**潭樹暖春雲　　　　 春雲 暖かなり**

**門徑稀人迹****門径 稀に**

**簷峰下鹿羣　　　　 下る**

衣裳與枕席　　　　衣裳と枕席と

山靄碧氛氳

【語釈】

○高官谷…不祥。○鄭鄠…不祥。○相訪…訪問する。相は行動が相手に及ぶ殊を示す。○空齋…人気の無い書斎。○澗花…渓に咲く花。○潭樹…淵に望む樹。○門径…門の前の道。○簷峰…家のひさしのような形をした峰。○山靄…山にかかる靄。○氛氳…気の盛んなさま。

山居即事 山居即事 王　維

寂寞掩柴扉　　　　として を掩い

蒼茫對落暉　　　　として に対す

**鶴巢松樹遍　　　　鶴は 松樹に巣いて遍く**

**人訪蓽門稀　　　　人は をふこと稀なり**

**綠竹含新粉　　　　緑竹 新粉を含み**

**紅蓮落故衣　　　　 を落とす**

渡頭煙火起　　　　 煙火起る

處處采菱歸　　　　処々 菱を采りて帰る

【語釈】

○寂寞…ひっそりとして物寂しいさま。○柴扉…柴で作った戸、粗末な住居。○蒼茫…水面などの青青として果てしなく広いさま。○落暉…夕日の光。○蓽門…柴や竹を編んで作った粗末な門。○紅蓮…紅色の蓮。○故衣…古くから着た衣〔花びらを例えている〕。○渡頭…渡し場。○煙火…ともしび。

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

題薦福寺衡嶽禪師房　　薦福寺の衡岳禅師の房に題す　　　　 韓　翃

春城乞食還　　　　春城 食を乞いて還える

高論此中閑　　　　高論 此のになり

**僧臘****堦前樹　　　　 の樹**

**禪心江上山　　　　禅心 江上の山**

**疎簾看雪卷　　　　疎簾　雪を看て巻き**

**深戸映花關　　　　深戸　花を映じてざす**

晚送門人去　　　　晩に　門人を送り去り

鐘聲杳靄間　　　　鐘声 の

【語釈】

○薦福寺…陝西省西安市薦福寺。○衡岳禅師…不祥。○僧臘…受戒後の期間。○堦前…きざはしの前。○門人…参詣の人。○杳靄…遙かな雲。

送史澤之長沙 　　の長沙にくを送る　　　　　　　　　　　　司空曙

謝朓懷西府　　　　 西府を懐う

單車觸火雲　　　　単車 火雲に触る

**野蕉依****戍客　　　　 にり**

**廟竹映湘君　　　　 に映ず**

**夢渚****巴山斷　　　　 断え**

**長沙楚路分　　　　長沙 分る**

一杯從別後　　　　一杯 別れてり後

風月不相聞　　　　風月 相聞かず

【語釈】

○史澤…不祥。○長沙…湖南省長沙市。○謝朓…南朝斉の詩人・文学者。同族の謝霊運・謝恵連とともに、六朝時代の山水詩人として名高く、あわせて「三謝」と称される。○西府…建業（南京）の西の地名。この場合は西府の同僚のこと。謝朓を史澤に、作者を西府の同僚になぞらえている。○単車…一両の車。急用の為に宿駅に用意してある。○火雲…夏の暑さ。○戍客…太守。○野蕉依戍客…長沙に多い芭蕉が太守である史澤の住居に寄りかかるという意。○廟竹…湘君廟にある竹。○湘君…廟内の湘君の木像。○夢渚…雲夢沢のこと、湖南省岳州市に属す。○巴山…湖北省恵州荊州にある山。○楚路…湖北省の道。

送裴侍御歸上都 がに帰るを送る　　　　　　　　　　　張　謂

楚地勞行役　　　　楚地 行役に労す

秦城罷鼓鼙　　　　秦城 をむ

**舟移洞庭岸　　　　舟は移る** **洞庭の岸**

**路出武陵谿　　　　路は出ず** **武陵の谿**

**江月隨人影　　　　江月 人影に随い**

**山花逐馬蹄　　　　山花 馬蹄をう**

離魂將別夢　　　　 をって

先爾到關西　　　　にって に到る

【語釈】

○裴侍御…不祥。侍御は天子のお側に使える人。○上都…長安。○楚地…春秋時代の楚の国の地。○行役…官命により土木工事、国境の守りに就くこと。○秦城…長安。○罷鼓鼙…安禄山の乱が治まったこと。○洞庭…洞庭湖。○武陵溪…湖南省常德市武陵溪。○離魂…肉体を離れた魂。○別夢…別れの夢。○關西…長安。

過蕭關 　　を過ぐ　　　　　　　　　　　　　　　　　張　蠙

出得蕭關北　　　　の北に 出ずるを得たり

儒衣不稱身　　　　 身にわず

**隴狐來試客　　　　 来りて を試み**

**沙鶻下欺人　　　　 下りて人をく**

**曉戍殘****烽火　　　　 残り**

**晴原起****獵塵　　　　晴原　起る**

邊戎莫相忌　　　　　むこと莫かれ

非是霍家親　　　　是れ のにあらず

【語釈】

○蕭關…寧夏回族自治区の固原の東南にあった関所。○儒衣…儒者の着る服。○隴狐…塚の穴に住む狐。○沙鶻…砂浜に住むクマダカ。○曉戍…暁の防衛のためのとりで。○烽火…のろし火。○獵塵…猟をするための馬蹄の煙。○邊戎…辺境の地の少数民族。○相忌…（自分を）嫌う。○霍家親…霍去病の親族。

秋夜宿僧院 　　秋夜 僧院に宿す　　　　　　　　　　　　　劉得仁

禪寂無塵地　　　　 無塵の地

焚香話所歸　　　　香を焚きて をす

**樹搖幽鳥夢　　　　樹は 幽鳥の夢をかし**

**螢入定僧衣　　　　蛍は の衣に入る**

**破月斜天半　　　　 天半に斜めに**

**高河下露微　　　　 露を下してなり**

翻令嫌白日　　　　って 白日はわしむ

動即與心違　　　　もすれば 即ち心とう

【語釈】

○禪寂…静かに思慮瞑想に耽ること。○所歸…自分の道において心の帰着すること。○幽鳥…声無く隠れ住む鳥。○定僧…座禅に入った僧。○破月…片月。○天半…空の中央。○高河…天の川。○白日…明るい太陽。

宿宣義池亭 　　の池亭に宿す　　　　　　　　　　　　　　劉得仁

暮色遶柯亭　　　　暮色 をぐり

南山出竹青　　　　南山 竹を出て青し

**夜深斜舫月　　　　夜は深し の月**

**風定一池星　　　　風は定まる 一池の星**

**島嶼無人跡　　　　 人跡無く**

**菰蒲有鶴翎　　　　 有り**

此中休便得　　　　此のに 休せんばち得ん

何必泛滄溟　　　　何ぞ必ずしも に泛ばん

【語釈】

○宿宣…浙江省紹興市会稽山の地名。○池亭…池の畔にある亭。○柯亭…浙江省紹興市西南の地名。○斜舫…斜めになっている舟。○島嶼…島々。○菰蒲…マコモとガマ。○鶴翎…鶴の羽。○滄溟…大海原。○何必泛滄溟…論語「子曰、「道不行、乘桴浮於海、從我者、其由與。」を踏まえる。

送殷堯藩遊山南 　の山南に遊ぶを送る　　　　　　　　　 姚　合

詩境西南遠　　　　詩境 西南遠し

秋聲晝夜蛩　　　　秋声 昼夜の

**人家連水影　　　　人家 水影に連なり**

**驛路在山峯　　　　駅路 山峰に在り**

**溪靜雲生石　　　　渓 静かにして 雲 石に生じ**

**天晴雪覆松　　　　天 晴れて 雪 松を覆う**

我爲公府繫　　　　我 にがれり

不得此相從　　　　に うを得ず

【語釈】

○殷堯藩…浙江省嘉興の人。憲宗元和九年の進士、侍御史となる。○遊山南…湖南觀察使李翱の幕僚として長沙に赴く。○詩境…詩情あふれる境地。○秋聲…秋の気配を感じさせる物音。○公府…官府。役人の勤め先。

題李凝幽居　　　　の幽居に題す　　　　　　　　　　　　 賈　島

閑居少鄰並　　　　閑居 少なし

草徑入荒園　　　　 荒園に入る

**鳥宿池中樹　　　　鳥は宿る 池中の樹**

**僧敲月下門　　　　僧は敲く 月下の門**

**過橋分野色　　　　橋を過ぎて 野色を分ち**

**移石動雲根　　　　石を移して 雲根を動かす**

暫去還來此　　　　暫く去りて ってに来らん

幽期不負言　　　　幽期 言に負かず

【語釈】

○李凝…不詳。李疑ともする。○幽居…静かなわび住まい。○閒居…静かな住まい。○少…まれである。○鄰並…隣り合う住まい。○草徑…草深い小道、田舎道。○荒園…荒れ果てた畑。○池邊…池の畔。○過橋…橋を渡る。○分…分かつ、分け隔てる。○野色…野原の景色。○雲根…山の高いところ。○幽期…奥深い約束。○不負…そむかない。

（参考文献）　ブログ（詩詞世界）

金山寺　　　　　　金山寺　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　張　祜

一宿金山寺　　　　一宿 金山寺

微茫水國分　　　　 水国を分つ

**僧歸夜船月　　　　僧は帰る 夜船の月**

**龍出曉堂雲　　　　竜は出ず 暁堂の雲**

**樹色中流見　　　　樹色 中流に見る**

**鐘聲兩岸聞　　　　鐘声 両岸に聞ゆ**

因悲在城市　　　　りて悲しむ 城市に在りて

終日醉醺醺　　　　終日 酔いて たるを

【語釈】

○金山寺…江蘇省鎮江市にある寺。○微茫…かすかでぼんやりしているさま。○城市…俗世間の意。○醺醺…酒の匂いをいう。

商山早行 　　商山早行　　　　　　　　　　　　　　　　　　溫庭筠

晨起動征鐸　　　　に起き を動かす

客行悲故郷　　　　 故郷を悲しむ

**雞聲茅店月　　　　 茅店の月**

**人迹板橋霜　　　　 板橋の霜**

**槲葉落山路　　　　 山路に落ち**

**枳花明驛牆　　　　 になり**

因思杜陵夢　　　　りて思う 杜陵の夢

鳧雁滿迴塘　　　　 に満つ

【語釈】

商山 … 山の名。陝西省商県の東南にある、漢代の初めに、四人の隠士が乱を避けて隠れ住んだことで有名、四人とも鬚ひげや眉が皓白の老人であったので、「商山の四皓」と呼ばれた。早行 … 早朝に旅立つこと。晨起 … 朝早く起きる。征鐸 … 旅の車の鈴。動 …あるいは鈴を鳴らしつつ車を進めること。客行 … 故郷を離れ、旅路にあること。茅店 … 茅かや葺ぶき屋根の粗末な宿屋。人迹 … 人の足あと。板橋 … 木の板を渡しただけの粗末な橋。槲葉 … かしわの葉。枳花 … からたちの花。駅牆 … 駅舎の土塀。因思 … そこでふと思い起こされる。杜陵 … 長安城の東南の郊外にある高台、当時有名な行楽地であった。鳧雁 … 野鴨と雁。迴塘 … 回るように湾曲した池、曲江を指すと思われる。

（参考文献）　『唐詩三百首』

秋日送方干遊上元 秋日 のに遊ぶを送る　　　　　 曹　松

天高淮泗白　　　　天高く 白し

料子趣修程　　　　る が にくことを

**汲水疑山動　　　　水を汲めば 山の動くかと疑い**

**揚帆覺岸行　　　　帆を揚げて 岸の行くかと覚ゆ**

**雲離京口樹　　　　雲は離る 京口の樹**

**鴈入****石頭城　　　　鴈は入る**

後夜分遙念　　　　後夜 をたば

諸峰霜露生　　　　諸峰 生ぜん

【語釈】

○晩唐の詩人新定（浙江省建徳県）の人。宣宗の大中年間に、進士を受験して失敗。会稽の鏡湖に隠棲をして、布衣で終わった。○上元…南京市江寧県。○淮泗…淮水（江蘇省を流れる川）と泗水（淮水に合流する川）。○修程…長い道のり。○京口…浙江省鎮江市の地名。○石頭城…南京市の古名。○後夜…別れて後の夜。○（相手を）遙かに思う気持ち。

寄睦州陸 に寄す 　　　　　　　　　　　　　　許　棠

下國多高趣　　　　 高趣多し

終年半是吟　　　　終年 半ばれ吟

**汐潮通****越分　　　　 に通じ**

**部伍雜蠻音　　　　 をう**

**曉郭雲藏市　　　　暁郭 雲 市を蔵し**

**春山鳥護林　　　　春山 鳥 林を護る**

東遊雖未遂　　　　東遊 未だ遂げずとも

日日至中心　　　　日々 中心に至る

【語釈】

○陸睦州…不祥。睦州は睦州（浙江省杭州市建德市）の刺史。○下國…地方の下等の国。小国。○高趣…高尚な趣の在る風景。○汐潮…潮、海原。○越分…越の地方との分点。○部伍…軍隊の部分けの組。○蠻音…南蛮の方言。○日日至中心…東游（睦州に行こうと思う）気持は日々心の中にある。

與崔員外秋直 　　と秋に直す　　　　　　　　　　　　　　王　維

建禮高秋夜　　　　建礼 高秋の夜

承明候曉過　　　　承明 暁の過ぐるをつ

**九門****寒漏徹****九門 し**

**萬井曙鐘多****万井 多し**

**月迥藏珠斗　　　　月はりて を蔵し**

**雲消出****絳河　　　　雲は消えて を出だす**

更慙衰朽質　　　　更にず の質の

南陌共鳴珂　　　　 共にを鳴すことを

【語釈】

○建礼…宮門の名。尚書省がこの前に置かれた。○承明…漢代の未央宮にある侍従の部屋。転じて宿直の場所。○九門…宮廷の門。○寒漏…寒々とした水時計の音。○万井…千門万戸。○珠斗…北斗七星。○絳河…天の川。○衰朽…老い衰えて能力のないこと。○南陌…南に面する道路。天子の住まいの道。○珂…礼服や馬に付ける装飾の具。

送梓州李使君　　　のを送る　　　　　　　　　　　 王　維

萬壑樹參天　　　　万壑 樹 天に参し

千山響杜鵑　　　　千山 響く

**山中一夜雨　　　　山中 一夜の雨**

**樹杪百重泉　　　　 百重の泉**

**漢女輸賨布　　　　漢女 をし**

**巴人訟芋田　　　　巴人 を訟う**

文翁翻教授　　　　文翁 って教授す

不敢倚先賢　　　　て 先賢にらざらんや

【語釈】

○梓州…四川省三台県。○李使君…不詳、使君は刺史のこと。○萬壑…多くの谷あい。○參天…高く伸びて天に達する。○杜鵑…ホトトギス。○一半雨…山が深く暗いため､晴れと雨とが交錯する。○樹杪…木の梢。○百重泉…木の梢から雨が泉のように落ちてくる。○橦布…橦という木の花で織った布。○輸…粗税として納めること。○巴人…重慶地方の人。○文翁…前漢の蜀の太守で、民の強化に努めた。○翻…物事を反対の方向に転じる意。未開の土地で蜀を文化ある地に改めたこと。○先賢…昔の賢人、文翁。

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

送楊長史赴果州 のにくを送る　　　　　　　 王　維

褒斜不容幰　　　　 を容れず

之子去何之　　　　の子 去りて 何くにか之く

**鳥道一千里　　　　鳥道 一千里**

**猿聲十二時　　　　猿声 十二時**

**官橋****祭酒客　　　　官橋 祭酒の**

**山木女郎祠　　　　山木 女郎の祠**

別後同明月　　　　別後 明月を同じうせば

君應聽子規　　　　君 応に子規を聴くべし

【語釈】

○楊長史…不祥。○果州…四川省南充市。漢中から北の秦嶺を越えて蜀に入る桟道。○幰…車。○之子…親しみを込めて相手を呼ぶ言葉。○鳥道…鳥しか通わないような険しい道。○官橋…官営の橋。○祭酒…送る者が送られる者についていう言葉。○女郎祠…果州の金華山にある謝自然という女神を祀る祠。○子規…ホトトギス、故郷を思い出させるという。

赴京途中遇雪　　　京にく途中 雪に遇う 　　　　　　　　　　孟浩然

迢遞秦京道　　　　たり の道

蒼茫藏暮天　　　　たり の天

**窮陰連晦朔　　　　 を連ね**

**積雪遍山川　　　　積雪 山川にし**

**落雁迷沙渚　　　　落雁 に迷い**

**飢烏噪野田　　　　 野田に噪ぐ**

客愁空佇立　　　　客 愁いて 空しくし

不見有人煙　　　　人煙 有るを見ず

【語釈】

○迢遞…遠く遙かなさま。○秦京…秦の都咸陽。○蒼茫…果てしなく広がって視界のかすかなさま。○窮陰…陰の気が窮まる旧暦十二月、冬の末。○晦朔…旧暦十一月から旧暦十二月。○沙渚…砂浜の渚。○饑烏…饑えた鴉。○客愁…旅の愁い（を抱いた作者）。○佇立…何時までもたたずむ。○人煙…人家から立ち上るかまどの煙。

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

早行 早行 郭　良

早行星尚在　　　　早行 星 尚お在り

數里未天明　　　　数里 未だならず

**不辨雲林色　　　　雲林の色を 弁ぜず**

**空聞風水聲　　　　空しく 風水の声を聞く**

**月從山上落　　　　月は山上より落ち**

**河入****斗間橫　　　　河はに入りて横わる**

漸至重門外　　　　く至る の

依稀見洛城　　　　として 洛城を見る

【語釈】

○早行…朝早くでかけること。○天明…夜明け。○河…天の川。○斗間…北斗七星の間。○重門…幾つも重なり合った門。○依稀…ぼんやりと。○洛城…洛陽。

荊溪館呈丘義興　　にてに呈す　　　　　　　　　　　嚴　維

失路荊溪上　　　　路を失す の上

依仁忽暝投　　　　仁に依りて ちす

**長橋今夜月　　　　長橋 今夜の月**

**陽羨古時州　　　　 古時の州**

**野燒明山郭　　　　 山郭に明かに**

**寒更出****縣樓　　　　 より出ず**

先生能館我　　　　先生 能く我を館す

何事五湖遊　　　　何ぞ 五湖の遊を事とせん

【語釈】

○荊溪…江蘇省常州市荆溪。○丘義興…不祥。義興は江蘇省無錫市宜興市で、その県令であったと思われる。○暝投…晩になってやどる。○陽羨…江蘇省無錫市宜興市。○寒更…寒々とした時を告げる水時計の音。○縣樓…県の役所の楼。○先生…丘義興のこと。○館…泊まらせる。○五湖遊…范蠡が効なりて後に官を辞して五湖に舟を浮かべて去ったこと。

漂母墓　　　　　　 漂母の墓 　　　　　　　　　　　　　　　　　劉長卿

昔賢懷一飯　　　　 一飯をう

茲事已千秋　　　　 已に千秋

**古墓樵人識　　　　古墓 識り**

**前朝楚水流　　　　前朝 楚水流る**

**渚蘋行客薦　　　　 め**

**山木杜鵑愁　　　　山木 愁う**

春草年年綠　　　　春草 年々緑なり

王孫舊此遊　　　　王孫 に遊ぶ

【語釈】

○漂母…糸さらしのおばあさん（韓信の恩人の漂母）。○昔賢…韓信。○懷一飯…飢えていたとき食事を恵んでもらったこと。○茲事…起句のできごと。○樵人…樵。○前朝…そのときのまま、此の地はそのとき楚と呼ばれた。○渚蘋…渚にある浮き草の一種。○行客…旅人。○薦…お供えをする。○王孫舊此遊…楚辞「招隠士」王孫遊不帰 春草生萋萋。

湖中閑夜　　　　　湖中閑夜 　　　　　　　　　　　　　　　　　朱慶餘

釣艇同琴酒　　　　 を同じうす

良宵背水濱　　　　 に背く

**風波不起處　　　　風波 起こらざる処**

**星月盡隨身　　　　星月 く身に随う**

**浦迥湘煙卷　　　　浦 かにして 湘煙巻き**

**林香嶽氣春　　　　林 しくして 岳気春なり**

誰知此中興　　　　誰か知らん 此のの

寧羨五湖人　　　　ぞ 五湖の人をまんや

【語釈】

○良宵…景色の美しい宵。○背水濱…岸辺を背にして舟を進める。○湘煙…瀟湘地方の雲。○岳気…洞庭湖の回りの山岳からの気。○五湖人…功がなって後に五湖に浮かんで去った范蠡。

四虚

陸渾山莊 　　の山莊　　　　　　　　　　　　　　　　　宋之問

歸來物外情　　　　帰り来る物外の情

負杖閱巖耕　　　　杖を負いてをぶ

**源水看花入　　　　源水 花を看て入り**

**幽林採藥行　　　　幽林 薬を採りて行く**

**野人相問姓****野人 姓をう**

**山鳥自呼名　　　　山鳥 ら名を呼ぶ**

去去獨吾樂　　　　 独り 吾れ楽んで

無能愧此生　　　　無能 此の生を愧ず

【語釈】

○陸渾…陸渾山。洛陽にある山。○物外…世の中の外。○巖耕…山中の耕作地を耕す。○閱…視察する。○野人…田舎の人。○相問…（自分に向かって）問いかける。相は行為が相手に及ぶことを示す助字。○去去…物事に頓着せず。

新年作 　　新年の作　　　　　　　　　　　　　　　　　　宋之問

郷心新歲切　　　　郷心 切なり

天畔獨澘然　　　　天畔 独りたり

**老至居人下　　　　老 至りて 人の下に居し**

**春歸在客先　　　　春帰りて 客の先に在り**

**嶺猨同旦暮　　　　 を同じくし**

**江柳共風煙　　　　江柳 風煙を共にす**

已似長沙傅　　　　已に 長沙のに似たり

從今又幾年　　　　今より 又幾年

【語釈】

○郷心…故郷を思う気持ち。○天畔…天際。空のはて。○澘然…涙の落ちるさま。さめざめ。○嶺猨…峰に住む猿。○旦暮…日夜。終日。○風煙…風光と煙景。○長沙傅…漢の買誼。讒言のために長沙に流されていたことがあった。

喜鮑禪師自龍山至　　　鮑禅師の龍山より至るを喜ぶ　　　　 劉長卿

故居何日下　　　　故居 何れの日か下る

春草欲芊芊　　　　春草 たらんと欲す

**猶對山中月　　　　お 山中の月に対して**

**誰聽石上泉　　　　誰か 石上の泉を聴かん**

**猨聲知****後夜　　　　猨 いて を知り**

**花發見流年　　　　花 いて 流年を見る**

杖錫閑來往　　　　をきて 閑かに来往し

無心到處禪　　　　無心 到る処に禅す

【語釈】

○喜鮑禪師…不祥。○龍山…不確定。○故居…前に住んでいた所。○芊芊…草木が盛んに生い茂るさま。○後夜…夜半から明け方までの間。○流年…過ぎ去る年月、転じて年月。○錫…錫杖。

酬秦系 　　秦系にゆ　　　　　　　　　　　　　　　　　劉長卿

鶴書猶未至　　　　 猶お未だ至らず

那出白雲來　　　　んぞ 白雲を出でて来る

**舊路經年別　　　　旧路 年をて別れ**

**寒潮每日迴　　　　寒潮 毎日る**

**家空歸海燕　　　　家 空しうして 帰り**

**人老發江梅　　　　人 老いて 江梅く**

最憶門前柳　　　　最も憶う 門前の柳

閑居手自栽　　　　閑居して 栽えしことを

【語釈】

○秦系…劉長卿の友人。○鶴書…朝廷が賢者を招く詔書。○白雲…白雲が湧くような山中（隠棲の地）。○閑居…することもなく、のんびり暮らす。○自栽…陶淵明が隠棲するに際して自ら柳を植えたことに倣ったこと。

送朱放賊退後往山陰 の 賊退きて後 山陰に往くを送る　　　　劉長卿

越州初罷戰　　　　 初めて 戦うをめ

江上送歸橈　　　　江上 を送る

**南渡無來客　　　　南渡 来客無し**

**西陵自落潮　　　　西陵 自ら潮を落す**

**空城垂故柳　　　　空城 故柳垂れ**

**舊業廢春苗　　　　旧業 春苗を廃す**

閭里稀相見　　　　 相見ること稀に

鶯花共寂寥　　　　 共にたらん

【語釈】

○朱放…襄州襄陽(湖北襄樊)の人。安史の乱中剡縣に逃れたが，代宗宝応年間、山陰に居を移す。○賊…永王李璘（粛宗の弟）。○山陰…浙江省紹興市。○越州…浙江省紹興市。○歸橈…帰って行く舟。○南渡…呉越の地方。○西陵…浙江省 蕭山市。○舊業…昔の田畑などの財産。○閭里…平民。山陰の住人。

尋南溪常道人隱居 南溪の常道人の隱居を尋ぬ 　　　　　　　劉長卿

一路經行處　　　　一路 の処

莓苔見履痕　　　　 を見る

**白雲依靜渚　　　　白雲 に依り**

**春草閉閑門　　　　春草 閑門を閉ざす**

**過雨看松色　　　　雨を過ぎて 松色を看**

**隨山到水源　　　　山に随って 水源に到る**

溪花與禪意　　　　渓花と禅意と

相對亦忘言　　　　して た言を忘る

【語釈】

○南渓…浙江省紹興市の南にある鏡湖の南渓か。○常山道人…劉長卿の知人らしいが、未詳、「道人」は道士、俗世間をはなれた隠者。○莓苔…こけ。○履痕…履き物の跡。○依…たなびく。○静渚…しずかな水ぎわの地。○過雨…雨があがったあと。○隨山…山路をたどる。○禪意…道を修めて心を静めること

（参考文献）　『唐詩三百首』

題元錄事開元所居　　　のに題す　　　　　　　　　劉長卿

幽居蘿薜情　　　　幽居 の情

高臥紀綱行　　　　高臥 の行

**鳥散秋鷹下　　　　鳥散じ 下り**

**人閑春草生　　　　人閑かに 春草生ず**

**冒風歸野寺　　　　風をして 野寺に帰り**

**收印出山城　　　　印を收めて 山城を出ず**

今日新安郡　　　　今日 新安郡

因君水更清　　　　君に因りて 水更に清し

【語釈】

○元錄事…不詳、錄事は官名（録事参軍）で、刺史に下属する官。○幽居…世を避けて静かなところに住む。○蘿薜…蔦や葛、山深い処の象徴、蘿薜情とは、そこを慕う気持。○高臥…高逸の心を持って隠棲すること。○紀綱…法律規則。○鳥散…小人どもが恐れて退散すること。○秋鷹下…元錄事が隠棲したことを喩える。○收印…官職を辞する。○新安郡…歙州、浙江省杭州市や安徽省黄山市にまたがる。

寄靈一上人　　　　に寄す　　　　　　　　　　　　　　劉長卿

高僧本姓竺　　　　高僧 は

開士舊名林　　　　開士 旧名は林

**一入春山裏　　　　一たび 春山のにり**

**千峰不可尋　　　　千峰 尋ぬべからず**

**新年芳草徧　　　　新年 芳草く**

**終日白雲深　　　　終日 白雲深し**

欲徇微官去　　　　微官にいて去らんと欲す

懸知訝此心　　　　に知る此の心をらんことを

【語釈】

○靈一上人…不祥。○開士…菩薩。○芳草…かおりぐさ。○徇微官…天子の命により微官となる。○懸知…離れていても知る。○此心…官吏となって俗世間に埋もれようとする心。

除夜宿石頭驛　　　除夜 石頭駅に宿す　　　　　 戴叔倫

旅館誰相問　　　　旅館 誰かわん

寒燈獨可親　　　　寒灯 独り親しむべし

**一年將盡夜　　　　一年 に尽きんとする夜**

**萬里未歸人　　　　万里 未だ帰らざる人**

**寥落悲前事　　　　 前事を悲しみ**

**支離笑此身　　　　 此の身を笑う**

愁顏與衰鬢　　　　愁顔と衰鬢と

明日又逢春　　　　明日 又春に逢う

【語釈】

○寒燈…冬の夜の灯。○寥落…落ちぶれた様。○前事…今までの人生で起こったこと。○支離…ちぐはぐなこと。○愁顏…愁いに満ちた顔。○衰鬢…苦労や老年のために艶を失った、又は薄くなった髪の毛。

汝南逢董校書　　　汝南にて董校書に逢う 　　　　　　　　　戴叔倫

擾擾倦行役　　　　として 行役にみ

相逢陳蔡間　　　　相逢う の間

**如何百年內　　　　ぞ 百年の內**

**不見一人閑　　　　一人の なるを見ず**

**對酒惜餘景　　　　酒に対して を惜み**

**問程愁亂山　　　　を問いて 乱山を愁う**

秋風萬里路　　　　秋風万里の路

又出穆陵關　　　　又 を出ず

【語釈】

○汝南…中国河南省駐馬店市の県。○校書…校書郎、秘書を校堪することを司る官。○擾擾…ごたごたしたさま。○行役…仕事としての旅行。○相逢…出会う。○陳蔡間…陳と蔡の間 (孔子が難儀したところ)。○餘景…残っている光。○程…道のり。○亂山…不揃いに連なっている山々。○穆陵關…山東省青州府にあった関所。

江上別張勸　　　　江上 に別る　　　　　　　　　　　　　 戴叔倫

年年五湖上　　　　年々 五湖の上

厭見五湖春　　　　い見る 五湖の春

**長醉非關酒　　　　長酔 酒に関するに非ず**

**多愁不爲貧　　　　多愁 貧の為ならず**

**山川迷道路　　　　山川 道路に迷い**

**伊洛暗風塵　　　　 風塵暗し**

今日扁舟別　　　　今日 扁舟の

俱爲滄海人　　　　に の人とる

【語釈】

○張歡…人名、不詳。○五湖…江蘇省と浙江省の間にある大湖。○伊洛…伊水と洛水、共に洛陽付近を流れる川。○暗風塵…その地方が安定でないこと。○滄海…海、あてどない旅の比喩。

送丘爲落第歸江東　　丘為が落第して江東に帰るを送る　　　 王　維

憐君不得意　　　　憐む 君が意を得ず

況復柳條春　　　　やた 柳条の春

**爲客黃金盡　　　　と為りて 黄金尽き**

**還家白髮新　　　　家に還って 白髪新なり**

**五湖三畝宅　　　　五湖 三畝の宅**

**萬里一歸人　　　　万里 一帰人**

知爾不能薦　　　　を知って むることわず

羞稱獻納臣　　　　の臣と称せらるるを羞ず

【語釈】

○丘爲…盛唐の詩人。○落第…科挙に不合格となること。○江東…長江下流の南岸地方。○五湖…太湖とその他の五つの湖、丘爲の故郷の地。○三畝宅…狭い屋敷。○獻納臣…皇帝に忠言をする官、王維はこのとき左補闕。

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

岳州逢司空曙　　　にてに逢う　　　　　　　　　 李　端

共有髫年故　　　　共に の有り

相逢萬里餘　　　　う 万里余

**新春兩行淚　　　　新春 の涙**

**故國一封書　　　　故国 一封の書**

**夏口帆初落****夏口 帆 初めて落ち**

**涔陽雁正疎　　　　 雁 になり**

唯當執杯酒　　　　唯だ に杯酒をりて

暫食漢江魚　　　　く 漢江の魚をうべし

【語釈】

○岳州…湖南省岳暘市。○司空曙…中唐の詩人。○髫年…幼年。○夏口…湖北省武漢市夏口。○涔陽…湖南省常德市澧県。

洛陽早春　　　　　洛陽の早春 　　　　　　　　　　　　　顧　況

何地避春愁　　　　何れの地にか 春愁を避けん

終年憶舊遊　　　　終年 旧遊を憶う

**一家千里外　　　　一家 千里の外**

**百舌****五更頭　　　　 五更の**

**客路偏逢雨　　　　 に雨に逢い**

**郷山不入樓　　　　郷山 楼に入らず**

故園桃李月　　　　故園 桃李の月

伊水向東流　　　　伊水 東に向って流る

【語釈】

○春愁…春のもの悲しい気持。○百舌…モズ。○五更…夜明けのとき。○客路…旅路。○郷山…故郷（蘇州）の山。○伊水…洛陽を流れる川。

送陸羽　　　　　　陸羽を送る　　　　　　　　　　　　　　 皇甫曾

千峯待逋客　　　　千峰 を待つ

香茗復叢生　　　　 復たす

**採摘知深處　　　　 深処を知り**

**烟霞羨獨行　　　　 独行を羨やむ**

**幽期山寺遠****幽期 山寺遠く**

**野飯石泉清****野飯 石泉清し**

寂寂燃燈夜　　　　たる の夜

相思磬一聲　　　　相思う 一声ならんことを

【語釈】

○陸羽…復州竟陵(湖北省天門)の人。僧皎然、顏真卿と交流があった。○逋客…官にならず隠棲する人。○香茗…香りのある茶。○幽期…再会を約した時。○野飯…山間の宿舎での食事。○寂寂…物寂しいさま。○燃燈…灯火。○磬…への字型の楽器。

贈喬尊師　　　　　喬尊師に贈る　　　　　　　　　 張　鴻

長忌時人識　　　　長く忌む 時人の識らんことを

有家雲澗深　　　　家有り 深し

**性惟耽嗜酒　　　　性はだ 酒をす**

**貧不****破除琴　　　　貧なるも 琴をせず**

**靜鼓三通齒　　　　に 三通の歯を鼓し**

**頻湯****一味參　　　　に 一味のを湯にす**

知師最知我　　　　知んぬ 師の最も我を知るを

相引坐檉陰　　　　相引きて に坐せしむ

【語釈】

○喬尊師…不祥。尊師は道士の敬称語。○雲澗…雲のかかっている渓。○耽嗜…耽りたしなむ。○破除…捨てる。○一味參…何も加えない人参。○檉陰…カワヤナギの影。

客中　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　于武陵

楚人歌竹枝　　　　楚人 を歌う

遊子淚沾衣　　　　遊子 涙 を沾す

**異國久爲客　　　　異国 久しくと為り**

**寒宵頻夢歸　　　　寒宵 に帰るを夢む**

**一封書未返　　　　一封 書 未だ返らず**

**千樹葉皆飛　　　　千樹 葉 皆飛ぶ**

南過洞庭水　　　　南洞庭の水を過れば

更應消息稀　　　　更にに 稀なるべし

【語釈】

○客中…旅の途中。○楚人…戦国時代の楚の地方（湖北省、湖南省一帯）。○竹枝…民謡の一種。○遊子…さすらい人。○寒宵…寒い夜。○消息…故郷からの便り。○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。

長安春日　　　　　長安の春日 　　　　　　　　　　　　　　曹　松

浩浩看花晨　　　　たり 花を看る

六街揚遠塵　　　　六街 遠塵を揚ぐ

**塵中一丈日　　　　塵中 一丈の日**

**誰是****晏眠人　　　　誰か是れ の人**

**御柳垂着水　　　　 垂れて水に着き**

**野鶯啼破春　　　　 啼いて春を破る**

徒云多失意　　　　に云う 失意多しと

猶自惜離秦　　　　猶お自ら秦を離るることを惜しむ

【語釈】

○浩浩…広大なさま。○六街…都大路。○晏眠…遅くまで寝ていること。○御柳…宮中の柳。○秦…長安。

題破山寺後院　　　破山寺の後院に題す　　　　　　　　　　 常　建

清晨入古寺　　　　 古寺に入れば

初日照高林　　　　初日 高林を照す

**曲逕通幽處　　　　 幽処に通じ**

**禪房花木深　　　　禅房 花木深し**

**山光悅鳥性　　　　山光 鳥性を悦ばしめ**

**潭影空人心　　　　 人心を空しうす**

萬籟此倶寂　　　　 此れになり

但聞鐘磬音　　　　だ聞く の音

【語釈】

○破山寺…興福寺。江蘇省常熟市虞山にある寺。○清晨…日の出前後のすがすがしい朝。○初日…朝日。○幽處…静かな処。○潭影…深い淵の色。○萬籟…風のため諸物が発する音。○磬…への字型の楽器。

暮過山村　　　　　暮に山村を過ぐ 　　　　　　　　　　　　　　賈　島

數里聞寒水　　　　数里 寒水を聞く

山家少四鄰　　　　山家 四隣少なし

**怪禽啼曠野　　　　 に啼き**

**落日恐行人　　　　落日 行人を恐れしむ**

**初月未終夕　　　　初月 未だを終えず**

**邊烽不過秦　　　　 を過ぎず**

蕭條桑柘外　　　　たる の

煙火漸相親　　　　煙火 く相親しむ

【語釈】

○寒水…寒々とした川の流れ。○四鄰…あたり、四辺。○怪禽…怪しげな鳥。○曠野…荒れ野。○行人…旅人。○初月…三日月。○未終夕…夜を待たずに沈む。○邊烽…辺境ののろし。○秦…長安地方。○蕭條…物寂しいさま。○煙火…かまどの炊飯の煙。

（参考文献）　『唐詩選』（吉川幸次郎）

山中道士　　　　　山中の道士 　　　　　　　　　　　　　賈　島

頭髮梳千下　　　　頭髪ること

休糧帶瘦容　　　　糧をめてをぶ

**養雛成大鶴　　　　雛を養いて と成し**

**種子作高松　　　　を種えて 高松と作す**

**白石通宵煮　　　　白石**

**寒泉盡日舂　　　　寒泉 尽日 く**

不曾離隱處　　　　曽て 隠処を離れず

那得世人逢　　　　んぞ　世人に逢うことを得ん

○千下…多数回。○白石…道士の糧となる白石。○舂…白石を粉にするために薄で付く。

贈山中日南僧　　　山中日南の僧に贈る　　　　　　　　　　 張　籍

獨向雙峰老　　　　独り に向って 老ゆ

松門閉兩涯　　　　松門 両涯を閉ず

**翻經上蕉葉　　　　を翻えして にせ**

**挂衲落藤花　　　　衲を挂けて 藤花を落す**

**甃石新開井　　　　石をんで 新たにを開き**

**穿林自種茶　　　　林をちて 自ら茶をゆ**

時逢海南客　　　　時に 海南のに逢い

蠻語問誰家　　　　 誰が家ぞと問う

【語釈】

○日南…ベトナムの一角。○雙峰…福建省南平市双峰。○向…於いて、場所を表す前置詞。○松門…自然の松を使って作った門。○翻經…お経を翻訳する。○蕉葉…芭蕉の葉、字を書くのに使う。○蠻語…野蛮国の言葉。

田家　　　　　　　田家 　　　　　　　　　　　　　　　　　章孝標

田家無五行　　　　田家 五行無し

水旱卜蛙聲　　　　 を卜す

**牛犢乘春放　　　　 春に乗じて放ち**

**兒童候暖耕　　　　児童 暖をって耕す**

**池塘煙未歇　　　　池塘** **煙 未だまず**

**桑柘雨初晴　　　　　雨　初めて晴る**

歲晚香醪熟　　　　 熟し

村村自送迎　　　　 ら送迎す

【語釈】

○五行…五行説による判断。○水旱…水が出るか日照りか。○卜蛙聲…蛙の声で判断する。○牛犢…牛と子牛。○池塘…池。○煙…もや。○桑柘…桑とヤマグワ。○歲晚…年末。○香醪…香りのよい酒。

秦原早望　　　　　秦原の早望 　　　　　　　　　　　　　　章孝標

一忝郷書薦　　　　一たび　郷書の薦めをくせられて

長安未得回　　　　長安 だるを得ず

**年光逐渭水　　　　年光 渭水を逐い**

**春色上****秦臺　　　　春色 に上る**

**燕掠****平蕪去　　　　燕は を掠めて去り**

**人衝細雨來　　　　人は 細雨をいて来る**

東風生故里　　　　東風 故里に生ずるならん

又過幾花開　　　　又 の開くを過ぎん

【語釈】

○秦原…長安の郊外。○早望…朝早くの眺め。○忝郷書薦…科挙の府試（地方試験）に受かって、郷試（中央試験）の答案を書くことを許された。○未得回…郷試不合格で、長安に留まることができない。○年光…光陰。○渭水…長安の側を流れる黄河最大の支流。○春色…春景色。○秦臺…長安の台。○平蕪…原野。

前虚後実

雲陽館與韓少卿宿別　　　雲陽館にて韓少卿と宿別す　　　　　　　　司空曙

故人江海別　　　　故人 江海の別れ

幾度隔山川　　　　か 山川を隔つ

**乍見翻疑夢　　　　ち見て って夢かと疑い**

**相悲各問年　　　　相悲みて 年を問う**

**孤燈寒照雨　　　　孤灯 寒くして雨を照らし**

**深竹暗浮煙　　　　深竹 暗くして****煙を浮ぶ**

更有明朝恨　　　　更に 明朝の有り

離杯惜共傳　　　　 共に伝えんことを惜しむ

【語釈】

○雲陽館…長安の酒楼。○韓少卿…不祥。○宿別…一宿して別れる。○故人…昔からの友人。○乍見…偶然に出会って。○煙…もや。○離杯…別れの盃。

酬暢當　　　　　　にゆ 　　　　　　　　　　　　　耿 湋

同遊漆沮後　　　　同じく に遊びし後

已是十年餘　　　　已に是れ 十年余

**幾度曾相夢　　　　幾度か 曽つてむ**

**何時定得書　　　　何れの時にか 定めて書を得ん**

**月高城影盡　　　　月 高くして 城影尽き**

**霜重柳條疎　　　　霜 重くして 柳条なり**

且對樽前酒　　　　且つ 樽前の酒に対して

千般想未如　　　　千般想えども 未だ如くならず

【語釈】

○暢當…河東(山西省永濟西)の人。代宗大歷七年(772)の進士。果州の刺史となった。○漆沮…漆水と沮水　共に陝西省の川。

寄友人　　　　　　友人に寄す　　　　　　　　　　　　　　 張　蠙

世道復何如　　　　 た

東西遠索居　　　　東西 遠くす

**長疑即見面　　　　長く疑う し面を見ると**

**翻致久無書　　　　って久しく書の無きことを致す**

**甸麥深藏雉　　　　 深くして 雉を蔵し**

**淮苔淺露魚　　　　 浅くして 魚を露す**

相思不我會　　　　ども 我と会せず

明月幾盈虛　　　　明月 幾たびかす

【語釈】

○世道…世の中の道。○索居…友人と交際せずに孤独でいる。○甸麥…畑に植えた麦。○淮苔…淮水（揚州の北部を繞る川、秦淮）に生える苔。○盈虛…満ちたり欠けたりする。

送喻坦之歸睦州 　のに帰るを送る　　　　　　 　　　李　頻

歸心常共知　　　　帰心 常に共に知る

歸路不相隨　　　　帰路 相いわず

**彼此無依倚　　　　 りる無し**

**東西又別離　　　　東西 又た別離**

**山花含雨潤　　　　山花 雨を含んでい**

**江樹逆潮欹　　　　江樹 に逆ってつ**

莫戀漁樵興　　　　の興を 恋うる莫かれ

生涯各有爲　　　　生涯 おの 為すこと有り

【語釈】

○喻坦之…睦州(浙江省建德市)の人。科挙に合格せず、久しく長安に寓居した。結局舊山に帰って落寞して終わった。李頻の同郷の友人。○歸心…故郷に帰りたいという気持。○漁樵…漁夫と樵。共に隠者を示す。

送李給事歸徐州覲省 が徐州に帰りてするを送る 孫　逖

列位登青瑣　　　　位を列して に登り

還郷服綵衣　　　　郷に還って を服す

**共言****晨省日　　　　共に言う の日**

**便是****晝遊歸　　　　ち是れ して帰る**

**春水經梁宋　　　　春水 を**

**晴山入海沂　　　　晴山 に入る**

莫愁東路遠　　　　東路 遠きを愁うる莫かれ

四牡正騑騑　　　　 に

【語釈】

○李給事…不祥。給事は天子の身の周りの世話をする官職。○覲省…二親の安否を問いて帰る。○青瑣…宮廷。○服綵衣…周の老萊子は父母を歓ばそうとして五色班闌の衣を付けて、小兒の風をして父母に仕えた。李給事を老萊子になぞらえている。○晨省…早朝父母の安否を尋ねる（礼記）。○晝遊…故郷に錦をかざる。○梁宋…宋州（河南省商丘市一帯）。○海沂…東海郡（￥山東省臨沂市と江蘇省北部、および安徽省天長市にまたがる地域）と沂州（山東省臨沂市一帯）。○四牡…四頭立ての馬車。○騑騑…馬が走って止まらないさま。

送溧水唐明府　　　のを送る 　　　　　　　　　　韋應物

三爲百里宰　　　　三たび 百里のと為りて

已過十餘年　　　　已に過ぐ 十余年

**祗嘆官如舊　　　　だ 官の旧の如きを嘆じ**

**旋聞****邑屢遷　　　　って のるを聞く**

**魚鹽濱海利　　　　魚塩 海利にし**

**桑柘傍湖田** **湖田にう**

到此安民俗　　　　に到りて 民俗をんぜば

琴堂又晏然　　　　 又たたらん

【語釈】

○溧水…南京市溧水区。○唐明府…不祥。明府は県令。○宰…主。ここでは明府。○邑…任地。○魚鹽…魚と塩。海産物。○桑柘…くわとやまぐわ。○湖田…湖のほとりの田。○民俗…人民の習わし。○琴堂…『呂子春秋』に、「宓子賤、禪父を治む、琴を弾じ、身堂を下らずして治む。」とあるのに基づく。唐明府を宓子賤になぞらえる。○晏然…安定。

送王錄事赴虢州　　のにくを送る 岑　參

早歲即相知　　　　 ち相知る

嗟君最後時　　　　す 君が最も時にるることを

**青雲仍未達　　　　青雲 お 未だ達せず**

**白髮欲成絲　　　　白髪 糸を成さんと欲す**

**小店****關門樹　　　　小店 関門の樹**

**長河華岳祠　　　　長河 華岳の祠**

弘農民吏待　　　　弘農 民吏待たん

莫使馬行遲　　　　馬行をして からしむる莫かれ

【語釈】

○王錄事…不祥。錄事は、記録・文簿を司る官職。○虢州…河南省三門峽市靈寶市。○後時…出世が遅い。○青雲…青雲の志。功名を立て立身出世をしようとする心。○關門…函谷関。○長河…黄河。○華岳祠…五嶽の一つである崋山にある嶽定を祀る祠。○弘農…弘農郡、河南省西部に位置する三門峡市・南陽市西部及び陝西省商洛市した。○民吏…官吏。

別鄭礒　　　　　　に別る 　　　　　　　　　　　　　　郎士元

暮蟬不可聽　　　　 聴くべからず

落葉豈堪聞　　　　落葉 に 聞くに堪えんや

**共是悲秋客　　　　共に是れ 悲秋の**

**那知此路分　　　　ぞ知らん 此の路より分れんとは**

**荒城背流水　　　　荒城 流水に背き**

**遠鴈入寒雲　　　　遠鴈 寒雲に入る**

陶令門前菊　　　　 門前の菊

餘花可贈君　　　　余花 君に贈るべし

【語釈】

○鄭礒…不祥。○荒城…荒れた九江郡（江西省北部）の街、江水を背にして立つ。○陶令…陶淵明。陶淵明の故里は栗里といい、九江郡にある。

送韓司直　　　　　を送る　　　　　　　　　　　　　　 皇甫冉

遊呉還適越　　　　呉に遊び た 越にかん

來往任風波　　　　来往 風波に任す

**復送王孫去　　　　た 王孫の去るを送り**

**其如春草何　　　　其れ 春草**

**山明殘雪在　　　　山明かにして 残雪在り**

**潮滿夕陽多　　　　潮満ちて 多し**

季子留遺廟　　　　 を留む

停舟試一過　　　　舟を停めて に一たびれ

【語釈】

○韓司直…不祥。司直は裁判官。○呉・越…春秋時代の呉と越の地方。○王孫…貴公子。《楚辭·淮南小山〈招隱士〉》：“王孫遊兮不歸　春草生兮萋萋。”を踏まえる。ここでは、韓司直のこと。○如～何…～如何（いかん）と訓読し、～はどうでろうかの意。○季子…春秋時代の呉の李札。呉の初代王寿夢の少子。清廉賢哲を以って知られ、延陵季子として知られる。○遺廟…李札の廟は江蘇省蘇州市にある。○過…訪れる。

途中送權曙　　　　途中 を送る 　　　　　　　　　　　　　　皇甫冉

淮海風濤起　　　　 起り

江關幽思長　　　　江関 長し

**同悲鵲遶樹　　　　同じく悲しむ のをるを**

**獨作****雁隨陽　　　　独り作す 雁のに随うを**

**山晚雲和雪　　　　山れて 雲 雪に和し**

**天寒月照霜　　　　天寒くして 月 霜を照す**

由來濯纓處　　　　由来 をいし処

漁父愛滄浪　　　　漁父 を愛す

【語釈】

○權曙…權と曙の二人、不祥。○淮海…淮水と海の畔の地方。○風濤…風波と安史の乱。○江關…湖北省枝城市の荊門と宜昌県の虎牙二山に長江が挟まれたところ。○幽思…心閑に思いやること。○鵲遶樹…曹操詩・短歌行「月明星稀　烏鵲南飛。繞樹三匝　何枝可依。」身寄りのないこと。○雁隨陽…「鴻雁の属は陽に従う」『尚書』　知る物があってそちらに行く。○濯纓處…「滄浪之水清兮　可以濯我纓」『楚辞・漁父辭』即ち　屈原が漁父辭を作った滄浪水（漢陽郡の川）。○漁父愛滄浪…纓が清いから。

酬普選二上人　　　　二上人にゆ 　　　　　　　　　　嚴　維

本意宿東林　　　　本 う 東林に宿せんことを

因聽子賤琴　　　　りて聴く の琴

**遙知大小朗　　　　に知る 大小の**

**已斷去來心　　　　已に断つ の心**

**夜靜溪聲近　　　　夜静かにして 渓声近く**

**庭寒月色深　　　　庭寒くして 月色深し**

寧知塵外意　　　　んぞ知らんや 塵外の意

定後更成吟　　　　定まりて後 更に吟を成さんとは

【語釈】

○普選…普と選の二人、不祥。○本意…本来の意思。○東林…廬山の名刹、東林寺。○子賤琴…『呂子春秋』に、「宓子賤、禪父を治む、琴を弾じ、身堂を下らずして治む。」とあるのに基づく。上人の玄話を聴くの意。○大小朗…晉の恵朗禅師を大朗、振朗禅師を小朗という。普選二上人をなぞらえる。○去來…過去と未来。○塵外意…日常生活に関しない意思。

送鄭宥入蜀　　　　の蜀に入るを送る　　　　　　　　　　　 李　端

寧親西陟險　　　　親をんじて 西のかた険をる

君去異王陽　　　　君去りて に異る

**在世誰非客　　　　世に在りて 誰か客にざる**

**還家即是郷　　　　家に還れば　即ち是れ郷**

**劍門千轉盡　　　　剣門 千転尽き**

**巴水一支長　　　　巴水** **一支長し**

請語愁猿道　　　　請う 愁猿に語りてえ

無煩促淚行　　　　しくを促さしむるなかれと

【語釈】

○鄭宥…不祥。○寧…安心させる。○王陽…前漢の人、益州蜀の刺史となって車を駆って蜀の天険に到ったときに、父母があるため、身を傷つけることを畏れて車を返した。○千転…道の曲がることが数多いさま。○一支…一筋。○劍門…四川省廣元市劍門　蜀道の難所。○巴水…巴蜀を流れる川。○愁猿…悲しそうに鳴く猿。

杭州郡齋南亭　　杭州のの南亭 　　　　　　　　　　　　　　姚　合

符印懸腰下　　　　 に懸け

東山不得歸　　　　東山 帰るを得ず

**獨行南北近　　　　独り行けば 南北近し**

**漸老往還稀　　　　漸く老いて 往還稀なり**

**迸笋侵窗****長　　　　 窓を侵して長く**

**驚蟬出樹飛　　　　 樹を出て飛ぶ**

田田池上葉　　　　 池上の葉

長是使君衣　　　　長く是れ 使君の衣

【語釈】

○郡齋…郡の長官の宿舎。○符印…割り符。○東山不得歸…東晋の謝安は、若い頃は出仕せずに妓女を携えて東山に登って遊んだが　官吏の身としてはそのまねは出来ない。○迸笋…勢いよいタケノコ。○長…生長する。○田田…田の池。○使君…刺史。

日東病僧　　　　　日東の病僧 　　　　　　　　　　　　　　項　斯

雲水絕歸路　　　　雲水 帰路をつ

來時風送船　　　　来時 風 船を送る

**不言身後事　　　　言わず 身後の事**

**猶坐病中禪　　　　猶お坐す 病中の禅**

**深壁藏燈影　　　　深壁 灯影を蔵し**

**空窗出****艾煙　　　　空窓 をす**

已無郷土夢　　　　已に 鄉土の夢無く

起塔寺門前　　　　塔を起つ 寺門の前

【語釈】

○日東…日本。○雲水…雲水万里、道が遠いこと。○艾煙…灸の藻草の煙。○塔…墓。

送友人下第歸覲　　　友人の下第して帰覲するを送る 　　　　　　　劉得仁

君此卜行日　　　　君は に行日を卜す

高堂應夢歸　　　　高堂 に帰るを夢むべし

**莫將****和氏淚　　　　和氏が 涙をって**

**滴著老萊衣　　　　が衣に すること莫かれ**

**嶽雨連河細　　　　岳雨 河に連なりて細く**

**田禽出麥飛　　　　 麦を出て飛ぶ**

到家調膳後　　　　家に到りて 調膳の後

吟好送斜暉　　　　吟じて好し を送るに

【語釈】

○歸覲…帰って両親に謁する。○卜行日…占って出発の日を定める。○高堂…父母。○應…「まさに～すべし」と読み、「きっと～であろう」の意。○和氏淚…

和氏の璧」の故事。○老萊衣…「老莱子」の故事。○斜暉…夕陽。

南遊有感　　　　南遊して感有り 　　　　　　　　　　　　　　于武陵

杜陵無厚業　　　　杜陵 厚業無し

不得駐車輪　　　　車輪をむることを得ず

**重到****曾遊處　　　　重ねて の処に到れば**

**多非舊主人　　　　多くは に非ず**

**東風千里樹　　　　東風 千里の樹**

**西日一洲****蘋　　　　西日 一洲の**

又渡湘江去　　　　又 湘江を渡りて去れば

湘江水復春　　　　湘江 水 た春なり

【語釈】

○杜陵…長安の地の地名、作者の故郷。○厚業…大きな財産。○曾遊處…曾てあそんだ処。○蘋…浮き草。○広西省に流入し湖南省に入る川、 湖南省で最大の河流。

春早寄華下同志　　春早　華下の同志に寄す　　　　　　　　　　 裴　説

正是花時節　　　　正に是れ 花時の節

思君寢復興　　　　君を思いて てたく

**市沽終不醉　　　　 に酔わず**

**春夢亦無憑　　　　春夢も 亦た る無し**

**嶽面懸青雨　　　　岳面　青雨をけ**

**河心走濁冰　　　　河心 濁氷を走らず**

東門一條路　　　　東門 一条の

離恨正相仍　　　　 正にる

【語釈】

○華下…都下、長安。○市沽…市販の酒。○嶽面…高い山（崋山？）の面。○青雨…煙雨、こぬか雨。○離恨…別れの恨み。

途中別孫璐　　　途中にてに別る　　　　　　　　　　　 方　干

道路本無限　　　　道路 限り無し

又應何處逢　　　　又 に何れの処にて逢うべき

**流年莫虛擲　　　　流年 しくつ莫れ**

**華髪不相容　　　　 さず**

**野渡波搖月　　　　 波 月を揺がし**

**寒城雨****翳鐘****寒城 雨 鐘をず**

此心隨去馬　　　　此の心 去馬に随って

迢遞過重峰　　　　 重峰を過ぎん

【語釈】

○孫璐…不祥。○流年…流水の如く流れ行く年月。○華髪…白髪頭。○野渡…野にある渡し場。○寒城…冬の城。○翳…覆い隠す。○去馬…去って行く馬。○迢遞…遙かで遠いさま。○重峰…重なり合う山。

送友及第歸浙東　　友の及第して浙東に帰るを送る 　　　　　　　方　干

南行無俗侶　　　　南行 無し

秋鴈與寒雲　　　　秋鴈と寒雲と

**野趣自多愜****野趣 自ら多くはう**

**名香人共****聞　　　　名香 人 共に聞く**

**吳山中路斷　　　　呉山 中路より断え**

**浙水半江分　　　　浙水 半江 分る**

此地登臨慣　　　　此の地 登臨してる

含情一送君　　　　情を含みて に君を送る

【語釈】

○浙東…浙江省杭州市。○俗侶…俗世間の友達。○野趣…山野の情味。○愜…心にかなう。○聞…匂いを嗅ぐ。○吳山…春秋時代の呉の地方の山。○浙水…浙水、錢唐江、杭州地方を流れる川。○登臨…高いところ登って下方を眺める。

春宮　　　　　　　春宮 　　　　　　　　　　　　　　　　　杜荀鶴

早被嬋娟誤　　　　に に誤まられて

欲妝臨鏡慵　　　　わんと欲して 鏡に臨みてし

**承恩不在貌　　　　恩をるは に在らず**

**教妾****若爲容　　　 をして かつくらしむ**

**風暖鳥聲碎　　　　風暖かにして 鳥声け**

**日高花影重　　　　日高くして 花影重し**

年年越溪女　　　　年々 渓を越える女

相憶採芙蓉　　　　いて 芙蓉をむ

【語釈】

○春宮…春宮怨、恩寵を受けられない宮女の怨みを述べた詩。○嬋娟…あでやかで美しいさま。○貌…容貌。○若爲…「若何」に同じ、どのようにして。

辭崔尚書 を辞す　　　　　　　　　　　　　 李　頻

一飯仍難受　　　　一飯 お受け難し

淹留已半年　　　　 已に半年

**終期身可報　　　　に 身の報ずべきを期す**

**不擬骨空鐫　　　　骨 空しく るを擬せず**

**城晚風高****角　　　　城 れて 風 を高くし**

**江春浪起船　　　　江 春にして 浪 船を起す**

曾同棲止地　　　　て 同じくせし地

獨去塞鴻前　　　　独り去る の前

【語釈】

○辭…（家から）離れる。○崔尚書…不祥。尚書は尚書郎（詔勅を司る官）。○淹留…久しく留まること。○骨…自分の心骨。○鐫…恩を記す。○角…角笛。○棲止…住む。寄食する。○塞鴻…塞上を通り過ぎる雁。

下方　　　　　　　下方 　　　　　　　　　　　　　　　　　司空圖

三十年來往　　　　三十年 来往す

中間京洛塵　　　　中間 の塵

**倦行今白首　　　　 今 白首**

**歸臥已清神　　　　 已に****清神**

**坡暖冬生笋　　　　 暖かにして 冬 を生じ**

**松涼夏健人　　　　松 涼しくして 夏 人を健にす**

更慚徵詔起　　　　更にず せられて起って

避世迹非真　　　　世を避けて た真に非ざるを

【語釈】

○下方…穢土、仏教用語。ここでは、中條山のふもと（司空圖の住居）と掛ける。○来往…慌ただしく過ごすこと。○京洛…都。○倦行…人事に倦むこと。○白首…白髪頭。○歸臥…官職を辞めて家に帰って静かに過ごすこと。○清神…精神の清浄なさま。○徵詔…詔により官吏となること。

華下送文浦涓　　　　にて を送る 　　　　　　　　　司空圖

郊居謝名利　　　　郊居 名利を謝す

何事最相親　　　　ぞ 最も相親しむ

**漸與論詩久　　　　く に詩を論ずること久し**

**皆知得句新　　　　皆 知る 句を得ること新たなるを**

**川明虹照雨　　　　川 明かにして 虹 雨を照らし**

**樹密鳥衝人　　　　樹 密にして 鳥 人をく**

應念從今去　　　　にうべし 今り去りて

還來嶽下頻　　　　た 岳下に来ることなるを

【語釈】

○華下…ここでは華陰県（陝西省同州府）。○郊居…田舎の家。○謝…謝絶する。○漸…しだいしだいに。○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。

遊東林寺 東林寺に遊ぶ　　　　　　　　　　　　　 黃　滔

平生愛山水　　　　 山水を愛す

下馬虎溪時　　　　馬をに下す時

**已到終嫌晚　　　　已に到りて にきことを嫌い**

**重遊預作期　　　　 め期をす**

**寺寒三伏雨　　　　寺は寒し の雨**

**松****偃數朝枝　　　　松はす** **数朝の枝**

翻譯如曾見　　　　翻訳 て見るが如し

白蓮開舊池　　　　白蓮 旧池に開く

【語釈】

○東林寺…江西省九江市の南、廬山にある名刹。○平生…常日頃。○虎溪…東林寺の前にある渓。○重遊…重ねて（ここに来て）遊ぶ。○三伏…初伏、中伏、末伏。夏の一番暑いとき。○偃…地に横たわる。○数朝…東晉から唐までの時代。長い年月。○翻譯…南宋の高僧が経本を翻訳した翻譯臺。

送僧還南嶽 　　僧の南岳にるを送る　　　　　　　　　　　　周　賀

辭僧下水棚　　　　僧に辞して を下る

因聽嶽鐘聲　　　　りて聴く の声

**遠路獨歸寺　　　　遠路 独り寺に帰る**

**幾時重到****城　　　　か 重ねて城に到らん**

**風高寒葉落　　　　風高くして 寒葉落ち**

**雨絶夜堂清　　　　雨絶絶えて 夜堂清し**

自說深居後　　　　ら説く 深居の後

隣州亦不行　　　　 た 行かじと

【語釈】

○南嶽…五岳の一つである衡山 。○辭僧…周賀は曾て僧侶であったので、同侶の僧に別れを告げるの意。○城…俗世間の街。○深居…下界と接触無く住むこと。○隣州…となり（近くの）州。

送人遊蜀　　　　　人の蜀に遊ぶを送る　　　　　　　　　　 馬　戴

別離楊柳陌　　　　別離 楊柳の

迢遰蜀門行　　　　たり 蜀門の

**若聽清猨後　　　　若しくはを聴いて後**

**應多白髮生　　　　に 多くは白髪生ずべし**

**虹霓侵棧道　　　　 を侵し**

**雨雪雜江聲　　　　雨雪 江声をう**

過盡愁人處　　　　人を愁えしむる処を 過ぎ尽くさば

煙花是錦城　　　　煙花 是れ 錦城

【語釈】

○陌…街路。○迢遰…遙かに遠い。○蜀門…蜀への径には山が重なり門のようである。○清猨…清い猿の声。○虹霓…虹。○棧道…崖に穴を空けて木を差し込んでその上に架けた道。○愁人處…山峡の猿の鳴き声がする所。○煙花…花霞。○錦城…錦官城（成都）。

經周處士故居　　　周処士の故居を 　　　　　　　　　　　　　　方　干

愁吟與獨行　　　　と独行と

何事不關情　　　　何事ぞ 情に関らざらん

**久立釣魚處　　　　久しく の処に立てば**

**唯聞啼鳥聲　　　　唯だ の声を聞く**

**山蔬和雨歇　　　　 雨に和してみ**

**海樹入籬生　　　　海樹 籬に入って生ず**

吾在茲溪上　　　　吾 の渓上に在りて

懷君恨不平　　　　君をいて 恨み平かならず

【語釈】

○經…経過する。○周處士…不祥。處士は官に仕えない人。○故居…昔の住まい。○山蔬…山中の野菜。○歇…無くなる。○海樹…海辺の樹木。

送人歸山　　　　　人の山に帰るを送る　　　　　　　　　　　 石　召

相逢唯道在　　　　相逢いて 唯 道のみ在り

誰不共知貧　　　　誰か 共に貧しきことを知らざらん

**歸路****分殘雨　　　　帰路 残雨を分ち**

**停舟別故人　　　　舟を停めて** **故人に別る**

**霜明松嶺曉　　　　霜は明なり 松嶺の暁**

**花暗竹房春　　　　花は暗し 竹房の春**

亦有棲閑意　　　　亦た 棲閑の意有り

何年可寄身　　　　何れの年にか 身を寄すべき

【語釈】

○道…人の習得すべき大道。○分…分かち合う。○故人…古くからの友人。○棲閑…静かに生活する。

送友人歸宜春　　　友人の宜春に帰るを送る 張　喬

落花兼柳絮　　　　落花と柳絮と

無處不紛無　　　　処として ならざるは無し

**遠道空歸去　　　　 空しく帰り去る**

**流鶯獨自聞　　　　 聞かん**

**野橋喧碓水　　　　野橋 にしき水**

**山郭入樓雲　　　　山郭 楼に入る雲**

故里南陵曲　　　　故里 南陵の

秋期更送君　　　　秋期 更に君を送らん

【語釈】

○紛紛…一面に乱れ飛ぶさま。○遠道…遙かな道。○流鶯…流れ飛ぶ鶯の声。○野橋…野原の中の橋。○獨自…ひとり、二字でひとり、と読む。○碓…ここでは水の流れを利用して突く碓。○山郭…山の街。○故里…故郷。○南陵…安徽省南陵県。○曲…一部落。○秋期…秋賦（地方より　科挙に人を送ること）。

秋日別王長史　　　　秋日 王長史に別る 　　　　　　　　　　　王　勃

別路千餘里　　　　別路 千余里

深恩重百年　　　　深恩 百年に重し

**正悲西候日　　　　に悲しむ 西候の日**

**更動北梁篇　　　　更に動く の**

**野色籠寒霧　　　　野色 をめ**

**山光斂暮煙　　　　山光 をむ**

終知難再奉　　　　に 再び奉じ難きを知り

懷德自潸然　　　　徳をいて ら

【語釈】

○王長史…未詳、長史は官名、司馬に相当。○西候…秋。○北梁篇…別れの詩賦。○野色…野原の景色。○寒霧…冷ややかな靄。○山光…山の上の夕日。○暮煙…夕暮れの靄。○潸然…涙の流れるさま。さめざめ。

汝墳別業　　　　　の別業 　　　　　　　　　　　　　　祖　詠

失路農爲業　　　　路を失いて 農を業と為す

移家到汝墳　　　　家を移して に到る

**獨愁常廢卷　　　　独り愁う 常に巻を廃するを**

**多病久離羣　　　　多病 久しく群を離る**

**鳥雀垂窓柳　　　　鳥雀 窓に垂るる柳**

**虹霓出澗雲　　　　 を出ずる雲**

山中無外事　　　　山中 無し

樵唱有時聞　　　　 時に聞く有り

【語釈】

汝墳…安徽省阜陽県。別業…別荘。失路…人生行路に行き悩むこと。廃巻…書物を読まなくなった。虹蜺…にじ。澗…谷川。外事…身辺を取り巻く雑事。樵唱…樵の歌。

宣州使院別韋応物　　宣州の使院にて韋応物に別る　　　　　 劉長卿

白雲乖始願　　　　白雲 にく

滄海有微波　　　　 有り

**戀舊爭趨府　　　　旧をいて 争いて 府にり**

**臨危欲負戈　　　　危に臨みて を負わんと欲す**

**春歸花殿暗　　　　春は　花殿に帰りて暗く**

**秋傍竹房多　　　　秋は　竹房にいて多し**

耐可機心息　　　　機心の むべきに耐えたり

其如羽檄何　　　　其れ をせん

【語釈】

○宣州…安徽省宣城市宣州区。○使院…節度使の役所。○始願…最初の願望。○舊…旧友である韋応物。○爭趨府…急いで節度使の幕府を訪問する。○危…安史の乱。○機心…いつわり巧む心。栄達しようとする心。○羽檄…軍中の命令書。

又送陸潛夫茅山尋友　　又 がに友を尋ぬるを送る　 皇甫冉

登山自補屐　　　　山に登りて らをう

訪友不齎糧　　　　友をいて 糧をさず

**坐歇青松晚　　　　にう 青松の**

**行吟白日長　　　　行吟すれば 白日長し**

**人烟隔水見　　　　人煙 水を隔てて見え**

**草氣入林香　　　　 林に入りてし**

誰作招尋侶　　　　誰か のとりて

清齋宿紫陽　　　　して に宿せん

【語釈】

○陸潛夫…不祥。潛夫は隠者。○補屐…折れた木屐（歯の付いた下駄）の歯を繕う。○齎糧…金銭を持って行く。○人煙…人家の炊煙。○招尋…人を招く。○侶…複数の友。○清齋…肉食せず、清泉を飲む。○紫陽…紫陽觀、延陵（江蘇省常州）にあった道教の寺。

夏夜西亭即事　　　夏夜西亭即事 　　　　　　　　　　　　　　耿　湋

高亭賓客散　　　　高亭 散ず

暑夜最相和　　　　暑夜 最もす

**細汗凝衣集　　　　細汗 衣に凝りて集まり**

**微涼待扇過　　　　微涼 扇を待ちて過ぐ**

**風還池色定　　　　風 りて 池色定まり**

**月晚樹陰多　　　　月 くして 樹陰多し**

遙想隨行者　　　　遥かに想う 行に随う者

珊珊動曉珂　　　　として を動ぜしことを

【語釈】

○賓客…ここでは銭記のこと。○即事…事に触れてその場のことを題材にして作った詩。○相和…此処では、暑気の甚だしいこと。○風還…風が無くなること。○隨行者…宮城に行く者。○珊珊…佩玉（腰に付けるおび玉）の鳴る音。

庭春　　　　　　　庭春 　　　　　　　　　　　　　　　　　姚　合

塵中主印吏　　　　塵中 主印の吏

誰遣有高情　　　　誰か 高情有らしむ

**趁煖簷前坐　　　　をいて に坐し**

**尋芳樹底行　　　　を尋ねて 樹底に行く**

**土融凝野色　　　　土 融けて 野色り**

**冰敗滿池聲　　　　氷 敗れて 池声満つ**

漸覺春相泥　　　　く覚ゆ 春のむことを

朝來睡不輕　　　　 軽からず

【語釈】

○塵中…俗世間。○主印吏…印判を司る官。○趁…求める。○簷前…のきさき。○野色…野の景色。○漸…しだいしだいに。○凝…形成する。○泥…まとわりつく→定着する。

新春　　　　　　　新春 　　　　　　　　　　　　　　　　　姚　合

官卑長少事　　　　官 くして 長く 事少なし

縣僻又無城　　　　県 にして 又た城無し

**未曉衝寒起　　　　未だけざるに 寒をきて起き**

**迎春忍病行　　　　春を迎えて 病を忍びて行く**

**樹枝風掉軟　　　　樹枝　風 いて軟かく**

**菜甲土浮輕　　　　　土に浮んでし**

最好林間鶴　　　　最も好し 林間の鶴

今朝足喜聲　　　　今朝 喜声し

【語釈】

○僻…辺鄙。○掉…震える､揺れる。○菜甲…草や蔬菜の芽。○足…多い。

晚春答嚴少尹與諸公見過晩 王　維

晩春 と諸公のらるるに答う

松菊荒三徑　　　　松菊 に荒る

圖書共五車　　　　図書 共に五車

**烹****葵邀上客　　　　をて 上客をえ**

**看竹到貧家　　　　竹を看て 貧家に到る**

**雀乳先春草　　　　 春草に先だち**

**鶯啼過落花　　　　鶯啼いて 落花を過ぐ**

自憐黃髪暮　　　　自ら憐れむ 黄髪の暮

一倍惜年華　　　　一倍 年華を惜しむことを

【語釈】

○嚴少尹…不祥。○府の長官の次官。○松菊…松と　寒さに耐えた菊。「松菊猶存」の陶淵明の詩を借用して、嚴少尹を陶淵明になぞらえる。○葵…オアイ菜、貧者の食べ物。○雀乳…子に乳をやる雀。○黄髪…白髪と同じく老人。王維自身。○年華…歳月。

送王正字山寺讀書　　が山寺にて読書するを送る 　　李嘉祐

欲究先儒教　　　　先儒のを究めんとして

還過支遁居　　　　っての居を過ぐ

**山堦閑聽法　　　　 に法を聴き**

**竹寺獨看書　　　　竹寺 独り書を看る**

**向日****荷新卷　　　　日に向って 新たに巻き**

**迎秋柳半疎　　　　秋を迎えて 柳 半ばなり**

風流有佳句　　　　風流 有り

不似帶經鋤　　　　経を帯びて鋤くには似ず

【語釈】

○王正字…不祥。○先儒…先賢の儒者。○支遁…東晉の僧、王羲之、謝安と交流があった。○山堦…山家のきざはし。○荷…蓮の葉。○帶經…経書を読む。○鋤…農作業をする。

秋日過徐氏園林 秋日 徐氏の園林に過ぎる 包　佶

回塘分越水　　　　 越水を分ち

古樹積呉煙　　　　古樹 呉煙を積む

**掃竹催鋪席　　　　 席をくをし**

**垂蘿待繫船　　　　 船を繫ぐを待つ**

**鳥窺新罅栗　　　　鳥は窺う の栗**

**龜上半攲蓮　　　　亀は上る の蓮**

屢入忘歸地　　　　ば の地に入る

長嗟俗事牽　　　　す 俗事にかるることを

【語釈】

○過…訪れる。○徐氏…不祥。○回塘…曲がっている隄。○越水…越の地方の川。○呉煙…越の地方に見える靄。○掃竹…塵気を払う竹。○垂蘿…垂れ下がっている藤。○新罅…皮のむけた。○長嗟…歎く。

灞東司馬郊園　　の司馬の郊園 　　　　　　　　　　　　　　許　渾

楚翁秦塞住　　　　 にす

昔事李輕車　　　　昔 う

**白社貧思橘　　　　白社 貧しくして を思い**

**青門老種瓜　　　　 老いて瓜を種う**

**讀書三徑草　　　　読書 三径の草**

**沽酒一籬花　　　　 の花**

更欲尋芝朮　　　　更にを尋ねんと欲す

商山便寄家　　　　 ち家を寄せん

【語釈】

○灞東…長安の地名。○司馬…刺史の補佐官。○楚翁…楚の生まれの老人。○秦塞…灞東。○李輕車…李広の弟の李蔡。大将軍衛青に従って軍功があり、輕車將軍となった。司馬をなぞらえる。○白社…洪州（江西省南昌市一帯）。○青門…漢陽城の東門。○沽酒…市販の酒。○芝朮…芝は靈芝、朮は白朮、共に薬草。○商山…商山四皓のこと。

下第寓居崇聖寺感事 下第しに寓居し事に感ず　　 許　渾

懷玉泣京華　　　　玉を懐いて に泣き

舊山歸路賒　　　　旧山 帰路なり

**靜依禪客院　　　　静に 禅客の院にりて**

**幽學野人家　　　　に 野人の家に学ぶ**

**林晚鳥爭樹　　　　林 れて 鳥 樹を争い**

**園春蝶護花　　　　園 春にして 蝶 花を護る**

東門有閑地　　　　東門に 閑地有り

誰種邵平瓜　　　　誰か の瓜を種えん

【語釈】

○下第…科挙に不合格となること。○寓居…仮住まい。○崇聖寺…雲南省大理市の郊外にある寺。○土…故郷。○京華…京城（長安）の美称。○舊山…故郷の山。○靜…静寂。○依…求める。禪客院…座禅をする僧院。○幽…幽趣。○野人…農夫。○閑地…空き地。○邵平瓜…秦の東陵侯であった招平は、秦が滅んでから長安城の東門に瓜を植えて暮らしたという故事、帰農の生活に甘んじること。

（参考文献）　『唐詩選』吉川幸次郎編

寄山中高逸人　　　山中のに寄す 　　　　　　　　　　　孟　貫

煙霞多放曠　　　　 多くは

吟嘯是尋尋　　　　吟嘯 是れ尋常

**猨共摘山果　　　　と共に 山果を摘み**

**僧鄰住石房　　　　僧にりて 石房にす**

**躡雲雙屐冷　　　　雲をんで 冷やかに**

**採藥一身香　　　　薬を採りて 一身 し**

我憶相逢夜　　　　我は憶う いし夜

松潭月色涼　　　　 月色涼しかりしことを

【語釈】

○高逸人…高潔なる隠棲人。○煙霞…靄と霞。○放曠…からりと開けて束縛のないこと。○吟嘯…詩を吟ずる。○雙屐…ふたつのあしだ。○松潭…松の茂る淵。

贈廬嶽隱者　　　　の隠者に贈る 杜荀鶴

説見來此居　　　　　 来りてに居り

未嘗離洞門　　　　未だ嘗つて 洞門を離れずと

**結****茅遮雨結　　　　を結んで 雨結を遮け**

**採藥給晨昏　　　　薬を採りて に給す**

**古樹藤纏殺　　　　古樹 藤 いて殺し**

**春泉鹿過渾　　　　春泉 鹿 過ぎてる**

悠悠無一事　　　　悠々として 一事無く

不似屬乾坤　　　　乾坤に属すに似ず

【語釈】

○廬嶽…廬山。江西省九江市南部にある名山。○説見…見る。○茅…茅屋。茅葺きの粗末な家。○晨昏…朝晩。○悠悠…のんびり、ゆったりしたさま。○乾坤…天地。

寄司空圖　　　　　に寄す　　　　　　　　　　　　　　　　僧虛中

逍遙短褐成　　　　 成る

一劒動精靈　　　　一剣 精霊を動かす

**白晝夢****仙島　　　　白昼 仙島を夢み**

**清晨禮道經　　　　 を礼す**

**黍苗侵野徑　　　　 野径を侵し**

**桑椹汚閑庭　　　　 を汚す**

肯要爲隣肯　　　　肯えて を為す者を要せんや

西南太華青　　　　西南 青し

【語釈】

○司空圖…唐末の詩人。○逍遙…さまよい歩く。○短褐…短い毛布の服。賎者の着する服。○精靈…神鬼。神仙。○仙島…仙人の住む海の島。○清晨…日の出の前の時間。○桑椹…桑の実。○太華…華山。陝西省華陰市にある山。五岳のひとつ。

送成州程使君赴　　の赴くを送る　　　　　　　　 岑　參

程侯新出守　　　　 新たにて守たり

好日發行軍　　　　好日 行軍を発す

**拜命時人羨　　　　命を拝して 時人やみ**

**能官聖主聞　　　　官をくして 聖主聞く**

**江樓黑寒雨　　　　江楼 黒く**

**山郭冷秋雲****山郭 秋雲なり**

竹馬諸童子　　　　竹馬の諸童子

朝朝待使君　　　　朝々 使君を待つ

【語釈】

○成州…甘粛省隴南市北部。○程使君…不祥。使君は刺史。○程侯…程使君。○山郭…山里。○朝朝…毎朝。

漢陽即事　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　儲光羲

楚國千里遠　　　　楚国 千里遠し

孰知方寸違　　　　か知らん 方寸の違うことを

**春遊歡有客　　　　春遊 有客を歓び**

**夕寢賦無衣　　　　 無衣をす**

**江水帶冰綠　　　　江水 氷を帯びて緑に**

**桃花隨雨飛　　　　桃花 雨に随って飛ぶ**

九歌有深意　　　　九歌 深意有り

捐佩乃言歸　　　　佩を捐てて ち言に帰らん

【語釈】

○漢陽…湖北省武漢市漢陽区。○即事…事に触れてその場のことを詠った詩。○楚國…春秋時代の楚の国の地方。ここでは、漢陽。○方寸…心。意思。○九歌…屈原の作った詩の一つ。○佩…官吏が腰に付けるおびたま。官吏。○言歸…故郷に帰る。

酬劉員外見寄　　　が寄せらるるにゆ　　　　　　　 嚴　維

蘇耽佐郡時　　　　 郡にたる時

近出白雲司　　　　近ごろ 白雲のより出ず

**藥補****清羸疾　　　　薬は のを補い**

**窗吟絕妙詞　　　　窓には 絶妙の詞を吟ず**

**柳塘春水漫　　　　柳塘 春水に**

**花塢夕陽遲　　　　 夕陽遅し**

欲識懷君意　　　　君を懐うの 意を識らんと欲せば

朝朝訪檝師　　　　 にえ

【語釈】

○劉員外…中唐の詩人劉長卿。○蘇耽…伝説中の仙人。裁判官となったことがある。劉員外をなぞらえる。○佐…補佐官。○白雲司…刑部の官吏。○清羸…痩せ疲れること。○朝朝…毎朝。○檝師…船頭。○訪…問う。

別至弘上人　　　　に別る　　　　　　　　　　　　 嚴　維

最稱弘偃少　　　　最も称す 少しと

早歳草茆居　　　　早歳より に居す

**年老從僧律　　　　年老いて 僧律に従い**

**生知解佛書　　　　 仏書を解す**

**衲衣求壞帛　　　　 を求め**

**野飯拾春蔬　　　　野飯 を拾う**

章句無求斷　　　　章句 無し

時中學有餘　　　　時中 学余り有り

【語釈】

○至弘上人…不祥。○弘偃…行、住、坐、臥の行のうち臥。○草茆…在野、寺でない民間家。○生知…うまれながらの知恵。○衲衣…布の着物、人の使わない布をつなぎ合わせた粗末な着物。○壞帛…土の如くに染まったもの。○野飯…粗末な食事。○春蔬…春の野菜。○章句…文章の句。○求斷…判断を求める。○時中…時に従い変に応じてよろしきをえること。

送王牧往吉州謁使君叔 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　李嘉祐

王牧の吉州にきてに謁するを送る

細草綠汀洲　　　　細草 に緑なり

王孫耐薄遊　　　　王孫 に耐えたり

**年華初冠帶****年華 初めてす**

**文彩舊****弓裘　　　　文彩**

**野渡花爭發　　　　野渡 花 争いき**

**春塘水亂流****春塘 水 乱れ流る**

使君憐小阮　　　　使君 を憐れむとも

應念倚門愁　　　　応に の愁いを念ずべし

【語釈】

○王牧…不祥。○吉州…江西省吉安市。○使君叔…王牧の叔父で吉州刺史。○汀洲…中洲。○王孫…貴公子。王牧のこと。《楚辭·淮南小山〈招隱士〉》：“王孫遊兮不歸　春草生兮萋萋。”。○薄遊…ここ（吉州）を旅行すること。○文彩…立派なこと。○年華…若い年頃。○冠帶…冠と帯を着ける日本の元服。○文彩…立派なこと。○弓裘…荘子「弓人の子は先ず裘を作ることを学ぶ」、父や叔父の後を継ぐこと。○野渡…野原の渡し。○春塘…春の隄。○使君…使君叔。○小阮…

晉の阮咸、阮藉が叔父であったので、王牧を阮咸、使君叔を阮藉になぞらえる。

○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。○倚門愁…《戰國策》卷十三《齊策六》王孫賈年十五　事閔王。王出走　失王之處。其母曰：「女朝出而晚來　則吾倚門而望；女暮出而不還　則吾倚閭而望。女今事王　王出走　女不知其處　女尚何歸？」。子供の帰りを待つ愁い。

送章彝下第　　　　章彝の下第するを送る 　　　　　　　　　　綦毋潛

長安渭橋路　　　　長安 の路

行客別時心　　　　 別時の心

**獻賦溫泉畢　　　　賦を 温泉に献じて りて**

**無媒魏闕深　　　　の深きに** **媒す無し**

**黃鶯啼就馬　　　　黄鶯 啼いて 馬に就き**

**白日暗歸林　　　　白日 暗くして 林に帰る**

三十名未立　　　　三十にして 名未だ立たず

君還惜寸陰　　　　君 た 寸陰を惜しめ

【語釈】

○章彝…不祥。○下第…科挙に不合格となる。○渭橋…渭水に架かる橋。○行客…旅人。○獻賦溫泉…玄宗が温泉宮にあった時に劉明霞なるものが「温泉賦」を献じたが科挙に及第しなかった。それを引用する。○魏闕…宮廷。○媒…仲介。○黄鶯…コウライうぐいす。○白日…真昼の太陽。

哭空寂寺玄上人　　のを哭す 　　　　　　　　　錢　起

悽然雙樹下　　　　たり の下

垂淚遠公房　　　　涙を垂る の

**燈續生前火　　　　灯は続く 生前の火**

**爐添沒後香　　　　炉は添う 没後の香**

**陰堦明片雪　　　　 片雪 かに**

**寒竹響空廊　　　　寒竹 空廊に響く**

寂滅應爲樂　　　　 にたるべし

塵心徒自傷　　　　 徒にら傷む

【語釈】

○空寂寺…不祥。○玄上人…未詳。○悽然…いたましい。○雙樹…釈迦が入滅した樹を借用。○遠公…晉の恵遠法師に比す。○陰堦…暗いきざはし。○寒竹…冬の竹（が雪で折れる音）。○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。○寂滅爲樂…「般若心経」、煩悩の境を脱し、涅槃の境地にいたって、はじめて真の安楽が得られるということ。○塵心…俗世間の心。作者のこと。

送曹椅　　　　　　を送る　　　　　　　　　　　　　　 司空曙

青春三十餘　　　　青春 三十余

衆藝盡無如　　　　衆芸 尽くく無し

**中散詩傳畫　　　　 に伝え**

**將軍扇賣書　　　　将軍 扇書を売る**

**楚田晴下雁****楚田 晴れて雁下り**

**江日暖多魚　　　　江日 暖かくして魚多し**

惆悵空相送　　　　 空しく相送る

歡遊自此疎　　　　歓遊 り疎なり

【語釈】

○曹椅…不祥。○衆藝…各種の技能、芸術。○無如…及ぶ物がない。○中散…晉の嵇中散のこと、詩に巧みで、雇愷之がその詩を画に画いた。○將軍…晉の王羲之のこと。会稽の山陰にいたときに、老婆が来て書を乞い、扇に「清風來故人」の五字を書いて与えたら高く売れた。○楚田…春秋時代の楚の国の田畑。○惆悵…嘆き悲しむこと。

送金華王明府　　のを送る　　　　　　　　　　　　 韓　翃

縣舍江雲裏　　　　 江雲の裏

心閑境自偏　　　　心閑かにして らならん

**家資****陶令菊　　　　 陶令の菊**

**月俸****沈郎錢　　　　 の銭**

**黃蘗****香山路　　　　 香山の路**

**青楓暮雨天　　　　青楓 暮雨の天**

時聞引車騎　　　　時に 車騎を引くを聞かん

竹外有銅泉　　　　竹外に 銅泉有り

【語釈】

○金華…浙江省金華市婺城区。○王明府…不祥。明府は県令。○縣舍…県令の宿舎。○心閑境自偏…陶淵明飲酒其五「心遠境自偏」。○家資…財産。○陶令…陶淵明。○月俸…月の報酬。○沈郎錢…梁の沈約が金華の官であったので、その報酬をいう。○黃蘗…落葉喬木の名、キハダ。○香山…楚の地にある山。

和張侍郎酬馬尚書　　　　の「に酬る」に和す　　　韓　愈

來朝當路日　　　　来朝 当路の日

承詔改轅時　　　　をけて を改むる時

**出領須句國　　　　出でて の国を領じ**

**仍兼****少昊司　　　　りて の司を兼ぬ**

**暖風抽宿麥　　　　暖風　を抽んで**

**清雨卷歸旗　　　　清雨　を巻く**

賴寄新珠玉　　　　に 新珠玉を寄す

長吟慰我思　　　　長吟 我がを慰む

【語釈】

○張侍郎…張賈。清河(河北省)人。德宗貞元二年(786)の進士、穆宗長慶元年(821)兵部侍郎となり、後兵部尚書となる。○馬尚書…馬總。扶風(陝西省鳳翔)の人。刺史を経て刑部侍郎となり、節度使を経て戶部尚書となる。○来朝…天子の命を受けて参内すること。○當路日…参内の日、馬尚書が鄆州（山東省西部）刺史から、戶部尚書に任ぜられて参内する日。○改轅…改めて車を繞らす。○須句國…鄆州。○少昊…刑部尚書。○宿麥…冬に植えて夏に収穫する麦。○新珠玉…馬尚書の寄せた詩。

送董卿赴台州　　　が台州に赴くを送る　　　　　　　　　 張 蠙

九陌除書出　　　　九陌 出ず

尋僧問海城　　　　僧を尋ねて 海城を問う

**家從中路挈　　　　家は 中路よりえ**

**吏隔數州迎****吏は 数州を隔てて迎う**

**夜蚌侵燈影　　　　　灯影を侵し**

**春禽雜櫓聲　　　　　櫓声をう**

開圖知異跡　　　　図を開きて 異跡を知る

思上石橋行　　　　思想す 石橋の行

【語釈】

○台州…浙江省台州市临海市。天台山あり。○董卿…不祥。○九陌…宮中。○除書…辞令書。○海城…梵海城、寺院。○家…妻。○吏…台州の官吏達。○夜蚌…夜のハマグリ。○春禽…春の鳥。○石橋…天台山の景勝地。

過香積寺　　　　　にぎる 　　　　　　　　　　　　　王 維

不知香積寺　　　　知らず

數里入雲峰　　　　数里 に入る

**古木無人逕　　　　古木 人径無く**

**深山何處鐘　　　　深山 何れの処の鐘**

**泉聲咽危石　　　　泉声 危石にび**

**日色冷青松　　　　日色 青松になり**

薄暮空潭曲　　　　薄暮 の曲

安禪制毒龍　　　　安禅 を制す

【語釈】

○香積寺…長安の南、終南山山中にある寺。○古木…冬枯れの木や林。○雲峰…雲がかかってる高い峰。○人逕…人の通う小径。○危石…高くそばだっている石。○空潭…人気のない淵。○曲…ほとり。○安禅…坐禅して雑念を去り、精神を統一すること。○毒龍…人を害する龍のことで、人の心に住む邪念をいう

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

送友人尉蜀中　　友人の蜀中に尉たるを送る 　　　　　　　　　　徐　晶

故友漢中尉　　　　故友 漢中の尉

請爲西蜀吟　　　　請う 西蜀の吟を為せ

**人家多種橘　　　　人家 多くはを種え**

**風土愛彈琴　　　　風土 愛して琴を弾ず**

**水向昆明闊　　　　水は に向ってく**

**山通大夏深　　　　山は に通じて深し**

理閑無別事　　　　を理して 別事無くんば

時寄一登臨　　　　時に 一登臨を寄せよ

【語釈】

○尉…武官。○故友…昔からの友人。○漢中…成都。○風土愛彈琴…漢の司馬相如が蜀の人で、琴の名手であったので、蜀の人が琴を愛すとした。○大夏…インド。○理閑…清閑無事であること。

與諸子登峴山　　　諸子とに登る　　　　　　　　　　　 孟浩然

人事有代謝　　　　人事 有り

往來成古今　　　　往来 古今に成る

**江山留勝跡　　　　江山 を留め**

**我輩復登臨　　　　 復たす**

**水落魚梁淺　　　　水落ちて 浅く**

**天寒夢澤深　　　　天寒くして 深し**

羊公碑尚在　　　　羊公の碑 尚お在り

讀罷一沾襟　　　　読み罷んで たび を沾す

【語釈】

○峴山…湖北省襄陽市にある山。○人事…人の世の営み。○代謝…次々と入れ替わること。○往来…ここでは栄枯盛衰という意味。○古今…古代から今まで。○江山…漢江と峴山。○勝跡…優れて名高い景勝の地。○漁梁…やな。○夢澤…雲夢の沢（うんぼうのたく）湖北省の湿地帯。○羊公…荊州の都督として陸抗と対峙していた羊祜は、荊州の領民を労わるはおろか 相対していた呉の将兵にまで礼節を以て臨み敵味方問わずから尊崇を集めていた。 そんな羊祜も病を得、重篤の身となると後任に杜預を推挙して没した。○碑…羊祜が病死、死を惜しんだ民により生前彼が好んだ峴山に碑が建立された。 その碑を見た者は皆在りし日の羊祜を偲んで涙を堕とすに及んだ。墮淚碣という。

（参考文献）　『新釈漢文大系　詩人編　３』

寄邢逸人　　　　　に寄す　　　　　 　　　　　　　　　鄭　常

羨君無外事　　　　む 君が外事無くして

日與世情違　　　　日に 世情と違うことを

**地僻人難到　　　　地 にして 人 到り難く**

**溪深鳥自飛　　　　渓 深くして 鳥ら飛ぶ**

**儒衣荷葉老　　　　 老い**

**野飯藥苗野　　　　野飯 薬苗肥たり**

若問湖邊意　　　　若し 湖辺の意を問わば

而今憶共歸　　　　 共に帰らんことを憶う

【語釈】

○邢逸人…不祥。逸人は自称語。

呉明徹故壘　　　　の故塁 劉長卿

古臺搖落後　　　　古台 揺落の後

秋日望郷心　　　　秋日 望郷の心

**野寺人來少　　　　野寺 人の来ることなり**

**雲峰水隔深　　　　雲峰 水深きを隔つ**

**夕陽依舊壘　　　　夕陽 旧塁に依り**

**寒磬滿空林　　　　 空林に満つ**

惆悵南朝事　　　　す 南朝の事

長江獨至今　　　　長江 独り今に至る

【語釈】

○呉公台…南朝の宋の劉誕が築いた弩台。○呉明徹…陳の将軍。○揺落…木々の葉が風に散る。○寒磬…寒中に響く磬の音。磬はへの字形の楽器。○惆悵…不各嘆き悲しむこと。○南朝…東晉から陳にいたる６つの王朝。

送樊兵曹潭州謁韋大夫　　のに謁するを送る 李嘉祐

寒鴻歸欲盡　　　　 帰りて 尽きんと欲す

北客始辭秦　　　　北客 始めて 秦を辞す

**零桂雖逢竹　　　　 竹に逢うとも**

**瀟湘少見人　　　　 人を見ることなり**

**江花鋪淺水　　　　江花 浅水にき**

**山木暗殘春　　　　山木 残春に暗し**

修刺轅門裏　　　　を修す の

多憐爾爲親　　　　多くはむ が親の為にすることを

【語釈】

○樊兵曹…不祥。兵曹は軍事を司る官吏。○潭州…湖南省長沙市。○韋大夫…不祥。太夫は官名。○寒鴻…冬の鴻雁。○北客…故郷が北国に在る人。樊兵曹。○秦…長安。○零桂…零陵と桂陽 （湖南省南部と広東省東部）。○瀟湘…蕭水と湘水が合流する洞庭湖地方。○修刺…名刺を提出すること。○轅門…軍門。

西郊蘭若　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　羊士諤

雲天宜北戸　　　　雲天 北戸にし

塔廟似西方　　　　 西方に似たり

**林下僧無事　　　　林下 僧 無事**

**江清日正長　　　　江 清くして 日 正に長し**

**石泉盈****掬冷　　　　石泉 にちて　に**

**山實滿枝香　　　　山実 枝にちて し**

寂寞傳心印　　　　として 心印を伝う

無言亦已忘　　　　 た已に忘る

○西郊…秋の郊外の野原。○蘭若…寺院。○北戸…北向き（長安に向かって）に建てられた建物。○塔廟…仏塔。○西方…仏教伝来の西域。○掬…手に水をすくう。○寂寞…ひっそりとして物寂しいさま。○心印…真実の法。

送普門上人　　　　を送る 　　　　　　　　　　　　　　皇甫冉

花宮難久別　　　　花宮 久しく 別れ難し

道者憶千燈　　　　道者 千灯を憶う

**殘雪入林路　　　　残雪 林に入る路**

**深山歸寺僧　　　　深山 寺に帰る僧**

**日光依嫩草　　　　日光 にり**

**泉響滴春冰　　　　泉響 春氷をらす**

何用求方便　　　　何ぞ用いん を求むを

看心是一乘　　　　心を看る 是れ

【語釈】

○普門上人…未詳。○花宮…寺院のこと。○燈…ここでは法灯。○嫩草…やらわかい若草。○何用…不要である､反語。○方便…俗人を説くために仏法の本質にかかわりないことを適宜応用すること。○乘…仏の教法。

送耿處士　　　　　を送る 　　　　　　　　　　　　　　賈　島

一瓶離別酒　　　　 離別の酒

未盡即言行　　　　未だ尽さざるに 即ち行かんと言う

**萬水千山路　　　　万水 千山の路**

**孤舟幾月程　　　　孤舟 幾月の程**

**川原秋色靜　　　　川原 秋色静かに**

**蘆葦晚風鳴　　　　 晩風に鳴く**

迢遰不歸客　　　　として 不帰の客

人傳虛隱名　　　　人は の名を伝う

【語釈】

○耿處士…不詳、處士は官職に就かない在野の人。○秋色…秋景色。○蘆葦…あし。○迢遞…遙かに遠いさま。○虛隱…偽の隠者。

春喜友人至山舍　　春 友人の山舎に至るを喜ぶ　　　　　　　 周　賀

鳥鳴春日曉　　　　鳥は鳴く 春日の暁

喜見竹門開　　　　喜び見る 竹門の開くを

**路自高巖出　　　　路は より出で**

**人騎瘦馬來　　　　人は にりて来る**

**折花林影動　　　　花を折れば 林影動き**

**移石****澗聲迴　　　　石を移せば る**

更欲留深語　　　　更に 深語を留めんと欲すれば

重城暮色催　　　　 暮色す

【語釈】

○澗聲…谷川の音。○深語…意味の深い話。○重城…山が重なって城郭のように見えるさま。

龍翔喜胡權訪宿　　　　に の宿を訪ぬるを喜ぶ 　　 喻　鳧

林棲無異歡　　　　 無し

煮茗就花欄　　　　を煮て に就く

**雀啄北窓晩　　　　雀はむ 北窓の**

**僧開西閣寒　　　　僧は開く 西閣の**

**衝橋二水急　　　　橋をきて 二水急なり**

**扣月一鐘殘　　　　月をいて 一鐘残る**

明發還分手　　　　 た手を分つ

徒悲行路難　　　　に悲む 行路の難

【語釈】

○龍翔…龍翔寺、複数あり不確定。○胡權…不祥。○林棲…林の中の住居。○異歡…特別のもてなし。○花欄…花壇の闌干。○明發…明け方。

秋晚郊居　　　　　秋晩の郊居 　　　　　　　　　　　　　　任　翻

遠聲霜後樹　　　　遠声 霜後の樹

秋色水邊村　　　　秋色 水辺の村

**野徑無來客　　　　野径 客のる無く**

**寒風自動門　　　　寒風 自ら門を動かす**

**海山藏日影　　　　海山 日影を蔵し**

**江月落潮痕　　　　江月 潮痕を落す**

惆悵高飛晚　　　　す 高飛く

年年別故園　　　　年々 故園に別る

【語釈】

○秋晚…秋の終わりころ。○郊居…郊外の住居。○遠聲…遠くから聞こえる落ち葉の音。○秋色…秋景色。○野徑…野径。○海山…海上の山。○藏日影…沈む日を納める。○江石…川辺の石。○落潮痕…潮が引いていった痕。○惆悵…悲しみ嘆く。○高飛…天下に飛揚する。○故園…故郷。

友人南遊不還　　　友人南遊してらず　　　　　　　　　 于武陵

相思春樹綠　　　　 緑なり

千里各依依　　　　千里 依々

**鄠杜月頻滿　　　　 月 に満つ**

**瀟湘人未歸　　　　瀟湘 人 未だ帰らず**

**桂花風半落　　　　桂花 風 半ば落ち**

**煙草蝶雙飛****煙草 蝶 び飛ぶ**

一別無消息　　　　一別 消息無し

水南車跡稀　　　　水南 稀なり

【語釈】

○相思…相思樹、クワアズキ。○依依…離れがたく名残惜しいさま。○鄠杜…鄠県と杜県、共に陝西省に属する。○瀟湘…瀟水と湘水が合流する洞庭湖のあたり。○煙草…草叢の上にかかった靄。○水南…瀟湘の地方。○車跡…車のわだちのあと。

夜泊淮陰　　　　　夜 に泊す　　　 　　　　　　　　　　　　　項　斯

夜入楚家煙　　　　夜 楚家の煙に入れば

煙中人未眠　　　　煙中 人 未だ眠らず

**望來淮岸盡　　　　望み来れば 尽き**

**坐到酒樓前　　　　坐して到る 酒楼の前**

**燈影半臨水　　　　灯影 半ば水に臨み**

**箏聲多在船　　　　 多く船に在り**

乘流向東去　　　　に乗じて 東に向って去れば

別此易經年　　　　を別れて 年をからん

【語釈】

○淮陰…江蘇省淮安市淮陰区。○楚家…淮陰の家。○煙…炊煙。○箏…こと（唐の時代は１３弦。

秋夜宿淮口　　　　秋夜 に宿す 　　　　　　　　　　　　　　景　池

露白草猶青　　　　露白くして 草 お青し

淮舟倚岸停　　　　 岸にりて 停まる

**風帆幾處客　　　　風帆 の**

**天地兩河星　　　　天地 両河の星**

**樹靜禽眠草　　　　樹 にして 草に眠り**

**沙寒鹿過汀　　　　沙 寒くして 鹿 を過ぐ**

明朝誰結伴　　　　明朝 誰かを結ばん

直去泛滄溟　　　　直ちに去りて にばん

【語釈】

○淮口…江蘇省揚州市。○淮舟…淮口の舟。○兩河…天の銀河と地の河海。○結伴…旅の道ずれなる。○滄溟…海。

村行　　　　　　　村行 　　　　　　　　　　　　　　　　　姚　揆

天淡雨初晴　　　　天淡くして 雨初めて晴る

遊人恨不勝　　　　遊人 にえず

**亂山啼蜀魄　　　　乱山 啼き**

**孤棹宿巴陵　　　　 巴陵に宿る**

**影暗村橋柳　　　　影は暗し 村橋の柳**

**光寒水寺燈　　　　光は寒し 水寺の灯**

罷吟思故國　　　　吟をめ 故国を思う

窗外有漁罾　　　　窓外に 有り

【語釈】

○遊人…旅人。○蜀魄…ホトトギス。○孤棹…孤舟。○巴陵…湖南省岳暘県。○漁罾…しかけ網。

題甘露寺　　　　　に題す　　 　　　　　　　　　　　　　　曹　松

香門接巨壘　　　　香門 巨塁に接し

畫角間清鐘　　　　画角 清鐘をう

**北固一何峭　　　　北固 に何ぞなる**

**西僧多此逢　　　　西僧 多くに逢う**

**天垂無際海　　　　天はる の海**

**雲白久晴峰　　　　雲は白し の峰**

旦暮然燈外　　　　 の

濤頭振蟄龍　　　　 をす

【語釈】

○甘露寺…江蘇省鎮江市の北固山にある寺。○香門…寺の門。○巨壘…石頭城址。○畫角…彩られ角笛。○北固…北固山。○峭…険しい。○西僧…天竺から来た僧。○濤頭振蟄龍…潮が満ちるときは、龍神が　地中に眠っている龍を起こして、龍灯を寺に献ずる。

前実後虚

秋夜獨坐　　　　　秋夜独坐 　　　　　　　　　　　　　　　　　王　維

獨坐悲雙鬢　　　　独坐 を悲しみ

空堂欲二更　　　　空堂 二更ならんと欲す

**雨中山果落　　　　雨中 山果落ち**

**燈下草蟲鳴　　　　灯下 草虫鳴く**

**白髮終難變　　　　白髪 終に変じ難し**

**黃金不可成　　　　黄金成すべからず**

欲知除老病　　　　老病を除くを 知らんと欲すれば

唯有覺無生　　　　唯だ をるに有り

【語釈】

○悲雙鬢…髪が白くなったことを悲しむ。○空堂…人気のない堂。○二更…夜の九時ころ。○黃金…道教の錬金術で作られる不老長寿の薬金丹。○無生…仏教用語、生と滅を超えた絶対的真理。

（参考文献）　『新釈漢文大系 詩人編　３』

秋夜汎舟　　　　　秋夜 舟をぶ 劉方平

林塘夜汎舟　　　　 夜舟をぶ

蟲響荻颼颼　　　　虫響 たり

**萬影皆因月　　　　万影 皆 月にり**

**千聲各爲秋　　　　千声 秋の為なり**

**歲華空復晚　　　　 空しく たる**

**鄉思不堪愁　　　　鄉思 愁いに堪えず**

西北浮雲外　　　　西北 浮雲の外

伊川何處流　　　　 何れの処に流る

【語釈】

○林塘…樹林の池塘。○颼颼…寒気のさま。○歲華…年月。○西北…故郷の方角。○伊川…河南省を流れる川。

春日臥病　　　　　春日しを書す　　　　　　　　　　　　　劉　商

楚客經年病　　　　 年をて病む

孤舟人事稀　　　　孤舟 人事稀なり

**晚晴江柳變　　　　晩晴 江柳変じ**

**春暮塞鴻歸　　　　春暮 帰る**

**今日方知命　　　　今日 に 命を知る**

**前年自覺非　　　　前年 ら非なるをる**

不能憂歳計　　　　をうること わず

無限故山薇　　　　限り無し 故山の

【語釈】

○楚客…楚の地方の出身で他郷に在る人（作者）。○人事…普通の人のすること。○塞鴻…北方国境の雁。○知命…五十歳。○前年…四十九歳まで。○歳計…生活費。○故山薇…伯夷・叔斉の故事。

林館避暑　　　　　林館避暑 　　　　　　　　　　　　　　　　羊士諤

池島清陰裏　　　　池島 清陰の

無人泛酒船　　　　人の 酒船をべる無く

**山蜩金奏響　　　　 金奏響き**

**荷露水精圓　　　　 水精 なり**

**靜勝朝還暮　　　　 た**

**幽觀白已玄　　　　幽観 已に**

家林正如此　　　　家林 正にの如し

何不賦歸田　　　　何ぞ をせざる

【語釈】

○池島…池の中の島。○清陰…清凉な樹陰。○山蜩…山の蝉。○幽觀…世事と競走しない境地。○白已玄…白髪が黒くなる。○家林…故郷の林。○賦歸田…張衡が「帰田賦」を作って故郷に帰ったのに倣う。

柏梯寺懷舊僧　　　柏梯寺に旧僧を懐う 　　　　　　　　　　司空圖

雲根禪客居　　　　雲根 禅客の居

皆說舊吾廬　　　　皆説く 吾がと

**松日明金像　　　　 金像に明かに**

**苔龕響木魚　　　　 木魚響く**

**依棲應不阻　　　　 にてざるべし**

**名利本來疎　　　　 本来なり**

縱有人相問　　　　い人のう有るも

林間懶拆書　　　　林間 書をくにからん

【語釈】

○柏梯寺…陝西省華州にあった寺。○雲根…石の異名。○松日…松の間から漏れる日光。○金像…仏像。○苔龕…苔むした塔の下の室。○依棲…他人の家に住むこと。○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。

早春　　　　　　　早春 　　　　　　　　　　　　　　　　　司空圖

傷懷仍客處　　　　を傷めて おす

病眼却花朝　　　　病眼 却って花朝

**草嫩侵沙短　　　　草 くして 沙を侵して短く**

**冰輕著雨消　　　　氷 軽くして 雨をけて消ゆ**

**風光知可愛　　　　風光 愛すべきを知る**

**容髪不相饒　　　　容髪 さず**

早晚丹丘伴　　　　早晩 丹丘の伴

飛書肯見招　　　　書を飛ばして えて招かれん

【語釈】

○傷懷…心を痛めて悲しむこと。○客處…故郷を離れて寓居する。○却…背くこと。○花朝…花咲く朝（旧暦二月十四日ではない）。○嫩…草の柔らかいこと。○容鬢…旅で寓居するときに衰えた髪。○不相饒…勘弁しない。○丹丘…仙山の名。

江行二首　　　　　江行二首 　　　　　　　　　　　　　　　　　司空圖

地闊分吳塞　　　　地 くして を分ち

楓高映楚天　　　　楓 高くして 楚天に映ず

**曲塘春盡雨　　　　 春の尽くる雨**

**方響夜深船　　　　 夜の深き船**

**行紀添新夢****行紀 新夢を添え**

**羇愁甚往年　　　　 往年よりし**

何時京洛路　　　　何れの時か の路

馬上見人煙　　　　馬上に 人煙を見ん

【語釈】

○吳塞…呉の地方に設けられたとりで。○楚天…その地方の空。○方響…楽器の名。○行紀…紀行文。○羇愁…旅愁。○往年…以前の年。○京洛…長安。○人煙…炊煙。

春日　　　　　　　春日 　　　　　　　　　　　　　　　　　李咸用

浩蕩東風裏　　　　たる東風の

徘徊無所親　　　　徘徊 親しむ所無し

**危城三面水　　　　 三面の水**

**古樹一邊春　　　　古樹 一辺の春**

**衰世難行道　　　　 道を行い難し**

**花時不稱貧　　　　花時 貧にわず**

滔滔天下者　　　　たり 天下の者

何處問通津　　　　何れの処にか を問わん

【語釈】

○浩蕩…広大なさま。○東風…春風。○危城…高くて険しい城。○一辺…一面。○衰世…衰乱の時代。○滔滔…多数のさま。○通津…四方八方に通じる津。

雲居長老　　　　　の長老 　　　　　　　　　　　　　　　　　王貞白

巘路躡雲上　　　　 雲をんで上り

來參出世僧　　　　来りて参ず 出世の僧

**松敧半巖雪　　　　松は敧つ 半巌の雪**

**竹覆一溪冰　　　　竹は覆う 一渓の氷**

**不說有爲法　　　　の法を説かず**

**非傳無盡燈　　　　を伝うるに非ず**

了然方寸內　　　　了然たる方寸の內

應秪見南能　　　　応にだを見るべし

【語釈】

○巘路…山の尾根道。○出世僧…俗世を超越した僧（雲居長老）。○半巖雪…巌を半ば蔽う雪。○有爲法…世間に役立つ法。○傳無盡燈…仏教用語、伝灯は仏法を承け伝えること。○了然…明らかなさま。○方寸…胸。○應…「まさに～すべし」と読み、「～すべきである」「～しなければならない」の意。○南能…禅宗六祖、大鑑禅師慧能。

送許棠　　　　　　を送る　　　　　　　　　　　　　　 張　喬

離郷積歳年　　　　郷を離れて を積み

歸路遠依然　　　　帰路 遠きこと依然たり

**夜火山頭市　　　　夜火 山頭の市**

**春江樹杪船　　　　春江 の船**

**干戈愁****鬢改　　　　 の改まるを愁え**

**瘴癘喜身全　　　　 身の全きを喜ぶ**

何處營甘旨　　　　何れの処に を営まん

波濤浸薄田　　　　 をひたす

【語釈】

○許棠…宣州涇縣(安徽省涇県)の人。懿宗咸通十二年(八七一年)の進士（五十歳）。江寧県の丞で終わる。○積歳年…多くの年月を重ねる。○依然…もとのまま。○干戈…戦乱。○鬢改…白髪になる。○瘴癘…風土病。○甘旨…（両親に捧げる）美味のもの。○薄田…貧しく痩せた田畑。

穆陵關北逢人歸漁陽　　　の北にてに帰る人に逢う 劉長卿

逢君穆陵路　　　　君に逢う の路

匹馬向桑乾　　　　匹馬 に向う

**楚國蒼山古　　　　楚国 蒼山古く**

**幽州白日寒　　　　幽州 白日寒し**

**城池百戰後　　　　城池 百戦の後**

**耆舊幾家殘　　　　 幾家か残る**

處處蓬蒿遍　　　　処々 し

歸人掩淚看　　　　帰人 涙をいて看ん

【語釈】

○穆陵關…湖北省安陵にあった関所のことか。○漁陽…河北省薊県。○桑乾…山西省の北部から河北省に流れる川。○楚國…戦国時代の楚の国、今の湖南省、湖北省一帯。○幽州…河北省涿県。○耆舊…昔なじみの人々。○蓬蒿…荒れた土地に生える雑草。

早行寄朱山人放　　早行してに寄す　　　　　　　　　　 戴叔倫

山曉旅人去　　　　山けて 去り

天高秋氣悲　　　　天高くして 秋気悲し

**明河川上沒　　　　明河 に没し**

**芳草露中衰　　　　芳草 露中に衰う**

**此別又千里　　　　此の別れ 又た千里**

**少年能幾時　　　　少年 くぞ**

心知剡溪路　　　　心は知る の路

聊且寄前期　　　　かつ 前期を寄す

【語釈】

○早行…朝早く出発すること。○朱放…河北省㐮陽の人、浙江省紹興に移り、鑑湖のあたりに隠棲して多くの名士と交わった。左拾遺に任じられた。○秋気…秋の気配。○明河…銀河。○川上沒…川の上に見えた銀河が夜明けと共に消え去った。芳草…かぐわしい草。○少年…若いとき。○剡溪…浙江省紹興市の会稽山中の谷川、朱放の隠棲地。○聊且…二字で一語、しばしば自分の行為を謙遜する意味。○前期…将来の約束。

陝州河亭陪韋大夫眺望　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　劉禹錫

の河亭にてにして眺望す

雪霽太陽津　　　　雪はる 太陽津

城池表裏春　　　　城池 表裏の春

**河流添馬****頰　　　　河流 を添え**

**原色動龍鱗　　　　原色 を動かす**

**萬里獨歸客　　　　万里 独り帰る客**

**一杯逢故人　　　　一杯 故人に逢う**

因高向西望　　　　高きにり 西に向いて望めば

關路正飛塵　　　　関路 正に塵を飛ばす

【語釈】

○陝州…河南省三門峡市と山西省運城市の地方。○河亭…黄河河辺の亭。○韋大夫…未詳。○太陽津…陝州にある津の名。○城池…街の回りの堀。○河流…黄河の流れ。○馬頰…川の名。河北省東光を流れる。○原色…原野の色。○関路…関所の道。

巴南舟中　　　　　　の舟中 岑　參

渡口欲黃昏　　　　渡口 黄昏ならんと欲し

歸人爭渡喧　　　　帰人 渡を争いてし

**近鐘清野寺　　　　近鐘 野寺に清く**

**遠火點江村　　　　遠火 江村に点ず**

**見雁思郷信　　　　雁を見ては を思い**

**聞猿積淚痕　　　　猿を聞いては を積む**

孤舟萬里夜　　　　孤舟 万里の夜

秋月不堪論　　　　秋月 論ずるに堪えず

【語釈】

○巴南…四川省。○渡口…渡し場。○黄昏…夕暮れ。○郷信…故郷からの便り。

宿關西客舍寄東山嚴許二山人 　　　　　　　　　　　　　　　　　岑　參

のに宿し 厳・許二山人に寄す

雲送關西雨　　　　雲は送る 関西の雨

風傳渭北秋　　　　風は伝う の秋

**孤燈燃客夢　　　　孤灯 を燃やし**

**寒杵搗鄉愁　　　　 鄉愁をく**

**灘上思****嚴子　　　　灘上 を思い**

**山中憶許由　　　　山中 を憶う**

蒼生今有望　　　　 今望み有り

飛詔下林丘　　　　詔を飛ばして 林丘に下さんことを

【語釈】

○關西…函谷関より西の地方。関中(陝西省)。○客舍…旅館。○渭北…渭水(陝西省を流れる黄河の支流)の北。○客夢…旅先で見る夢。○寒杵…寒秋の砧の音。○鄉愁…故郷を思う愁い。○嚴子…漢の嚴子陵。光武帝の旧友であり、光武帝が招いたが応ぜず、灘の上で釣りをする隠棲生活を送った。○許由…堯帝が天下を譲ろうとしたが受けず箕山に隠棲した。○蒼生…人民。○林丘…厳・許二山人が住むところ。

夜宿龍吼灘臨眺思峨眉隠者　　夜 に宿しの隠者を思う　　岑　參

官舍臨江口　　　　官舎 江口に臨む

灘聲已慣聞　　　　灘声 已に聞くにう

**水煙晴吐月　　　　水煙 晴れて月を吐き**

**山火夜燒雲　　　　山火 夜雲を焼く**

**且欲尋方士　　　　つ 方士を尋ねんと欲す**

**無心戀使君　　　　使君を恋うに 心無し**

異郷何可住　　　　異郷 何ぞ住まるべきや

況復久離羣　　　　んやた 久しくを離るるをや

【語釈】

○龍吼灘…嘉州（四川省楽山市一帯）にある灘。○峨眉…峨眉山（四川省にある山で）中国三大霊山や中国四大仏教名山の一つ。○使君…刺史(この場合嘉州刺史であった自身の役職のこと)。○羣…ここでは親戚、知人。

南亭送鄭侍御歸東臺　　　南亭にが東台に帰るを送る 　　岑　參

紅亭酒甕香　　　　紅亭 香ばし

白面繡衣郎

**砌冷蟲喧坐　　　　 冷にして 虫 坐にしく**

**簾疎月到牀　　　　 疎にして 月 床に到る**

**鐘催離興急　　　　鐘は 離興をして急に**

**絃逐醉歌長　　　　絃は 酔歌をいて長し**

關樹應先落　　　　関樹 に先に落つべし

隨君滿路霜　　　　君に随う の霜

【語釈】

○南亭…南のあずまや。○鄭侍御…不詳、侍御は侍御史、御史台（検察庁）に属する微官。○酒甕…酒がめ。○白面…年若き男。○繍衣郎…侍御史のうち強権を有する者。○砌…石畳。○牀…寝椅子。○離興…別離の情。○醉歌…酔っ払って歌う歌。○關樹…関門の樹木。

南溪別業　　　　　南渓の別業　　　　　　　　　　　　　　　　　岑　參

結宇依青嶂　　　　を結んでに依る

開軒對綠疇　　　　軒を開いてに対す

**樹交花兩色　　　　樹 交わりて 花 両色**

**溪合水重流　　　　渓 合して 水 重流**

**竹****塢春來掃　　　　 春来りて掃う**

**蘭尊夜不收　　　　 夜 収めず**

逍遙自得意　　　　逍遥 の意

鼓腹醉中遊　　　　腹を鼓して 酔中に遊ぶ

【語釈】

○結宇…舎屋を建造する。○青嶂…屏風のような青山。○軒…長廊の窓のあるもの。○綠疇…青田。○塢…山あい。○蘭尊…酒樽。○自得…得意。

泊舟盱眙　　　　　舟をに泊す　　　　　　　　　　　　 常　建

泊舟淮水次　　　　舟を泊す の

霜降夕流清　　　　霜降りて 清し

**夜久潮侵岸　　　　夜 久くして 潮 岸を侵し**

**天寒月近城　　　　天 寒くして 月 城に近し**

**平沙依鴈宿　　　　平沙 鴈の宿するにり**

**旅館聽雞鳴　　　　旅館 雞の鳴くを聴く**

郷國雲霄外　　　　郷国 の

誰堪羈旅情　　　　誰か の情に堪えん

【語釈】

○盱眙…江蘇省淮安市盱眙県。○淮水…江蘇省淮安市淮河。○郷国…家郷。○雲霄…天際。○羈旅情…旅情。

江南旅情　　　　　江南旅情 　　　　　　　　　　　　　　　　祖　詠

楚山不可極　　　　楚山 極むべからず

歸客自蕭條　　　　 自ら

**海色晴看雨　　　　海色 晴れて 雨を看**

**江聲夜聽潮　　　　江声 夜 潮を聴く**

**劒留南斗近　　　　剣は 南斗に留りて近く**

**書寄北風遙　　　　書は 北風を寄せてなり**

爲報空潭橘　　　　為に報ず の

無媒寄洛橋　　　　に寄するに 無しと

【語釈】

○楚山 … 楚の国の山々。○蕭条 … 物寂しいさま。○海色 … 海の色。○江聲…長江の波の音。○聴潮 … 潮騒の音に耳をすます。○南斗 … 星の名。剣留南斗近 …『晋書』巻三十六、張華伝。書寄北風遥 … 李陵の「蘇武に答うるの書」（『文選』巻四十一）に「時に北風ほくふうに因り、復た徳音ふくいんを恵せよ」（時因北風、復惠德音）とある 。○報 … 返事をする。○空潭 … 人気ひとけのないふち。○橘 … たちばな。蜜柑の一種。○媒 … ここではたよりを伝えてくれる人。○洛橋 … 洛陽の町を流れる洛水にかけられた橋。

（参考文献）　『唐詩選』

冬日野望　　　　　冬日野望 　　　　　　　　　　　　　　于良史

地際朝陽滿　　　　地際 朝陽満ち

天邊宿霧收　　　　天辺 収まる

**風兼殘雪起　　　　風は 残雪を兼ねて起き**

**河帶斷冰流　　　　河は 断氷を帯びて流る**

**北闕馳心極　　　　 心極に馳せ**

**南圖尚旅遊　　　　 尚おす**

登臨思不已　　　　登臨 思 已まず

何處可消憂　　　　何れの処にか をすべき

【語釈】

○地際…地の果て。○天邊…空の果て。○宿霧…夜からかかっていた霧。○兼…まじえる。○斷冰…くだけた氷。○北闕…宮廷の北の門、転じて宮城、皇帝。○馳心極…心の奥底から思いを馳せる。○南圖…南に行くこと。○登臨…高いところから下を見下ろす。

江南追懐 　　　　江南旅懐 　　　　　　　　　　　　　祖　詠

楚山不可極　　　　楚山 極むべからず

帰客自蕭条　　　　 ら

**海色晴看雨　　　　海色 晴れて雨を**

**江声夜聴潮　　　　江声 夜潮を聴く**

**劒留南斗近　　　　劒は南斗に留まりて近く**

**書寄北風遥　　　　書は北風に寄りて遥なり**

為報空潭橘　　　　為に報ず の

無媒寄洛橋　　　　洛橋に寄するに 無し

【語釈】

○楚山…楚の国の山々。○蕭条…物寂しいさま。○海色…海の色。○江聲…長江の波の音。○聴潮 … 潮騒の音に耳をすます。○南斗 … 星の名。○剣留南斗近 …『晋書』巻三十六、張華伝。書寄北風遥 … 李陵の「蘇武に答うるの書」（『文選』巻四十一）に「時に北風ほくふうに因り、復た徳音ふくいんを恵せよ」（時因北風、復惠德音）とある 。○報 … 返事をする。○空潭 … 人気ひとけのないふち。○橘 … たちばな。蜜柑の一種。○媒…ここではたよりを伝えてくれる人。○洛橋 … 洛陽の町を流れる洛水にかけられた橋。

（参考文献）　『唐詩選』

早行 早行 　　　　　　　　　　　　　　　　　劉郇伯

鐘靜人猶寢　　　　鐘 にして 人 寝る

天高月自涼　　　　天 高くして 月 ら涼し

**一星深戍火　　　　一星 の火**

**殘月半橋霜　　　　残月 半橋の霜**

**客老愁****城下　　　　 老いて 城下を愁い**

**蟬寒怨路傍　　　　蟬 寒くして 路傍にむ**

青山依舊色　　　　青山 旧色にり

宛是馬卿郷　　　　も是れ が郷

【語釈】

○早行…朝早く出かけること。○深戍…遠くにある守備所。○城下…長安城下。○馬卿郷…漢の司馬長卿の故郷。成都。

逢播公　　　　　　播公に逢う 　　　　　　　　　　　　　周　賀

帶病希相見　　　　病を帯びて 相見ることなり

西城早晚來　　　　 早晩来らん

**山衣風壞帛　　　　山衣 風 を壊り**

**香印雨霑灰****香印 雨 灰をす**

**坐久鐘聲盡　　　　坐 久しくして 鐘声尽き**

**禪餘嶽影迴　　　　 岳影る**

却思同宿夜　　　　却って思う 同宿の夜

高枕說天台　　　　枕を高くして 天台を説くことを

【語釈】

○播公…不祥。○西城…長安。○山衣…隠者の衣。○香印…卍形に香を置いて焚く香。○禪餘…座禅が終わった後。

宿山寺 山寺に宿す　　　　　　　　　　　　　　 賈　島

衆岫聳寒色　　　　 寒色聳え

精廬向此分　　　　 此に向って分る

**流星透疎木　　　　流星 疎木をし**

**走月逆行雲　　　　走月 行雲にう**

**絶頂人來少　　　　絶頂 人の来ることなり**

**高松鶴不羣　　　　高松 鶴 群ならず**

一僧年八十　　　　一僧 年八十

世事未曾聞　　　　 未だ曽て聞かず

【語釈】

○衆岫…多くの山々。○寒色…寂しい景色。○精廬…精舎、寺。○向…於と同じで場所を示す。○疎木…疎らな木立。○走月…走るように見える月。○世事…俗世間のこと。

懷永樂殷侍御　　　のを懐う　　　　　　　　　　　 馬　戴

石田虞芮接　　　　 に接す

種柳白雲陰　　　　柳を種う 白雲の

**穴閉****神踪古　　　　穴 閉じて り**

**河流****禹鑿深　　　　河 流れて深し**

**樵人應滿郭　　　　 にに満つべし**

**仙鳥幾巢林　　　　仙鳥 か林に巣う**

此會偏相憶　　　　此の会 えにう

曾供雪夜吟　　　　曽て 雪夜の吟に供ぜしことを

【語釈】

○永樂…陝西省安康市石泉県。○殷侍御…殷堯潘、永楽県令となり後に侍御（弾劾を司る官）となった。○石田…耕作に適しない田畑。○虞芮…地名（「尚書伝」の故事）。○神踪…神仙の足跡。○禹鑿…伝説で禹が掘削して黄河に通ぜしめた場所。

題韋處士山居　　　韋処士の山居に題す　　　　　　　　　　 許　渾

斸藥去還歸　　　　薬をりて 去って還た帰る

家人半掩扉　　　　家人 半ば扉をう

**山風藤子落　　　　山風 落ち**

**溪雨豆花肥　　　　渓雨 豆花肥ゆ**

**寺遠僧來少　　　　寺遠くして 僧の来ることなり**

**橋危客過稀　　　　橋危くして 客の過ぐることなり**

不聞砧杵動　　　　の動くを聞かず

應解製荷衣　　　　に を製することを解すべし

【語釈】

○韋処士…不祥。処士は官に使えない人。○砧杵…きぬた。衣を打って柔らかくし艶を出す。○荷衣…蓮の葉で作った粗末な着物。隠者の衣服。

送龍州樊使君　　　竜州の　を送る 　　　　　　　　　　許　棠

曾見邛人説　　　　曽て の説くを見る

龍州地未深　　　　竜州 地 未だ深からず

**碧溪飛白鳥　　　　碧渓 白鳥を飛ばし**

**紅斾映青林　　　　紅斾 青林に映ず**

**土產唯宜藥　　　　 唯だ 薬にして宜しく**

**王租只貢金　　　　 只だ 金を貢ぐ**

政成閑宴日　　　　成りて の日

誰伴使君吟　　　　誰か伴う 使君の吟

【語釈】

○龍州…廣西崇左市龍州県。○樊使君…不祥。使君は刺史。○邛人…　邛州（四川省邛崍市）の人。○紅斾…紅色の旗｡刺史の威厳を示す。○土產…土地の産物。○王租…租税。○閑宴…ひまでくつろぐこと。

送人尉黔中　　　　人のに尉たるを送る 　　　　　　　　　周　繇

盤山行幾驛　　　　盤山 行くこと幾駅ぞ

水路復通巴　　　　水路 たに通ず

**峽漲三川雪　　　　峡には 三川の雪をらし**

**園開四季花　　　　園には 四季花を開く**

**公庭飛白鳥　　　　公庭 白鳥を飛ばし**

**官俸請丹砂　　　　官俸 をけん**

知尉黔人後　　　　知んぬ　黔人に尉として後

高吟採物華　　　　高吟して 物華を採らんことを

【語釈】

○黔中…重慶市重慶直轄県。○尉…武官の官名。○盤山…山また山。○巴…重慶市。○公庭…官府の堂。○丹砂…朱砂。意訳として用いる。○黔人…黔中の人。○物華…景色。

道院　　　　　　　道院 　　　　　　　　　　　　　　　　　王　周

白日人稀到　　　　白日 人 到ること稀なり

簾垂道院深　　　　を垂れて 道院深し

**雨苔生古壁　　　　 古壁に生じ**

**雪鸛聚寒林　　　　 寒林に聚まる**

**忘慮憑三樂　　　　を忘るるは 三楽に憑り**

**消閑信五禽　　　　閑を消するは** **五禽に信す**

誰知是官府　　　　誰か知らん 是れ 官府なるを

煙縷滿爐の沈　　　　 の

【語釈】

○道院…役人の休息所。○白日…昼間。○雪鸛…羽の色が雪のよう白い小雀。

○三樂…列子に説く「三楽」。○名医、華陀の五禽戯。体操のようなもの。○五禽…糸のような煙。○沈…沈水香。

一意

終南別業　　　　　終南別業 　　　　　　　　　　　　　　　　　王　維

中歳頗好道　　　　中歳より る道を好む

晚家南山陲　　　　に 南山のに家す

興來每獨往　　　　興 来りて 毎にし

勝事空自知　　　　勝事 空しくら知る

行到水窮處　　　　行ゆく到る 水の窮まる処

坐看雲起時　　　　坐して看る 雲の起る時

偶然値林偶　　　　偶然 にい

談笑滯還期　　　　談笑 をらす

【語釈】

○終南…終南山。○別業…別荘。○中歳…中年。○頗…いささか。○道…ここでは仏教。○晩…晩年。○家…家を構える。○南山…終南山。○陲…ほとり、周辺。○毎…常に。ことあるごとに。○勝事…すぐれたこと。○空…只の意。○窮…おわる、水窮處は水源地。○林叟…きこりの老人。

(参考文献)　『新釈漢文大系　詩人編　３』

晚泊潯陽望廬山　　晩にに泊し を望む　　　　　　　　 孟浩然

挂席幾千里　　　　席をく 幾千里

名山都未逢　　　　名山 て未だわず

泊舟潯陽郭　　　　舟を泊す の

始見香爐峰　　　　始めて見る 香炉峰

嘗讀遠公傳　　　　 て 遠公の伝を読んで

永懷塵外蹤　　　　永く懐う 塵外の

東林精舍近　　　　近し

日暮但聞鐘　　　　日暮 だ鐘を聞く

【語釈】

○潯陽…江西省九江市。○廬山…江西省九江市の近くの名山。○香炉峰…廬山の主峰。○遠公…晉の高僧慧遠、廬山の東林寺の住職。○塵外…俗世間の塵の外。○東林精舍…東林寺。

茶人　　　　　　　茶人 　　　　　　　　　　　　　　　　　陸龜蒙

天賦識靈草　　　　 を識る

自然鍾野姿　　　　自然 野姿をむ

閑來北山下　　　　に 北山の下にる

似與東風期　　　　東風と期するに似たり

雨後探芳去　　　　雨後 をって去る

雲間幽路危　　　　雲間 幽路し

唯應報春鳥　　　　唯だ にのみ

得共斯人知　　　　の人と共に 知ることを得べし

【語釈】

○天賦…生まれつき。○靈草…めでたく良い草。ここでは茶。○野姿…自然で素朴な姿。○鍾…集める。備える。○北山…陸龜蒙の茶園があった山。○芳…新茶の芽。○報春鳥…ウグイス。

尋陸鴻漸不遇　　　　を尋ねて遇わず　　　　　　　　　　　　僧皎然

移家雖帶郭　　　　家を移して をぶとも

野徑入桑麻　　　　野径 に入る

近種籬邊菊　　　　近ごろ に菊を種え

秋來未著花　　　　秋来 未だ花を著けず

扣門無犬吠　　　　門を扣けども 犬の吠ゆる無し

欲去問西家　　　　去らんと欲して 西家を問う

報道山中出　　　　報じて道う 山中より出て

歸來每日斜　　　　帰り来れば 日 に斜めなりと

【語釈】

○陸鴻漸…名は羽、復州（河北）の人、安史の乱後、東南地方に集まった自然派詩人の一人。○帶郭…負郭に同じ、城郭を後にすること。○野徑…のみち。○桑麻…桑と麻。○西家…西隣の家。○報道…答える。

（参考文献）　『唐詩三百首』

起句

軍中醉飲寄沈八劉叟　　　　軍中に酔飲して・に寄す 暢　當

**酒渴愛江清　　　　 江の清きを愛す**

**餘酣漱晚汀** **晩汀にぐ**

軟莎欹坐輭　　　　 欹坐 やかに

冷石醉眠醒　　　　冷石 酔眠む

野膳隨行帳　　　　 に随い

華音發從伶　　　　 を発す

數杯君不見　　　　数杯 君見えず

都已遣沈冥　　　　に をる

【語釈】

○沈八・劉叟…共に不祥。○酒渴…酒を多量に飲んだときの渇き。○餘酣…酒に中る。○晩汀…夜の渚。○軟莎…柔らかいハマナスゲ。○欹坐…ひざを曲げて坐る。○野膳…粗末な食事。○行帳…テント。○華音…佳麗な音楽。○從伶…従者の伶人（音楽官）。○都已…已に。○沈冥…前後のことも分別出来ない状態。

題江陵臨沙驛樓　　江陵のの駅楼に題す 　　　　　　　　　　司空曙

**江天清更愁　　　　江天 清くして 更に愁う**

**風柳入江樓　　　　風柳 江楼に入る**

雁惜楚山晚　　　　雁は惜しむ 楚山の晩

蟬知秦樹秋　　　　蟬は知る 秦樹の秋

淒涼多獨醉　　　　 多くは独酔

零落半同遊　　　　 半ば同遊

豈復平生意　　　　豈に復た 平生の意ならんや

蒼然蘭杜洲　　　　たり の州

【語釈】

○江陵…湖北省江稜。○臨沙驛…江稜府に属する宿場。○江天…長江と空。○風柳…風にそよぐ柳。○淒涼…物寂しい、痛ましい。○零落…木の葉の散ること、ここでは落ちぶれること。○同遊…かつての友人。○豈復…反語。○平生意…かつて思っていたこと。○蒼然…日暮れの薄暗いさま。○蘭杜…蘭と杜若、共に香草。

送耿山人遊湖南　　　の湖南に遊ぶを送る　　　　　　 周　賀

**南行隨越僧　　　　南行 に随う**

**舊業一池菱****旧業 一池の菱**

兩鬢已垂雪　　　　両鬢 已に雪を垂る

五湖歸挂罾　　　　五湖 帰りてをく

夜濤鳴柵鏁　　　　 を鳴らし

寒葦露船燈　　　　 船灯を露わす

去此更無事　　　　より去りて 更に無事ならば

却來猶不能　　　　すること おわず

【語釈】

○耿山人…不祥。山人は山に隠棲している人。○越僧…春秋時代の越の国の僧。○舊業…旧の別荘。○五湖歸…范蠡が功なって後、五湖に舟を浮かべて去った故事。○罾…よつであみ。○柵鏁…魚を捕らえるヤナ。○寒葦…寒々とした葦。○却來…本拠地に戻る。

宿巴江　　　　　　巴江に宿る　　　　　　　　　　　　　　　　　棲　蟾

**江聲五十里　　　　江声 五十里**

**瀉碧急於弦　　　　碧をいで 弦よりも急なり**

不覺日又不　　　　覚えず 又た

爭教人少年　　　　か 人をして少年ならしめん

一汀巫峽月　　　　一汀 の月

兩岸子規天　　　　両岸 子規の天

山影似相伴　　　　山影 うに似たり

濃遮到客船　　　　にって に到る

【語釈】

○巴江…三峡のあたり。○江聲…長江の流れる音。○碧…碧色の水。○弦…弦楽器における急弦。○少年…若い人。○巫峽…三峡の一つ。○子規…ホトトギス。○客船…旅客を乗せた船。

結句

送陵陳法師赴上元　　　のにくを送る　　　　 皇甫冉

延陵初罷講　　　　 初めて講をむ

建業去隨緣　　　　建業に去りて 縁に随う

翻譯推多學　　　　翻訳 多学をす

擅場最少年　　　　擅場 最も少年

浣衣逢野水　　　　衣をいて 野水に逢い

乞食向人煙　　　　食を乞いて 人煙に向う

**遍禮南朝寺　　　　遍く 南朝の寺を礼し**

**焚香古像前　　　　香を焚く 古像の前**

【語釈】

○陳法師…不祥。○上元…江蘇省江寧県。○延陵…江蘇省江寧県。○建業…南京。　○翻譯…経典を梵語から漢語に翻訳する。○擅場…主席。

送從弟歸河朔　　　従弟のに帰るを送る  　　　　　　　　　　李嘉祐

故郷何可到　　　　故郷 か到るべき

令弟獨能歸　　　　令弟 独りく帰る

諸將旌旄節　　　　諸将 をす

何人重布衣　　　　何人か を重んず

空城流水在　　　　空城 流水在り

荒澤舊村稀　　　　荒沢 旧村稀なり

**秋日平原路　　　　秋日 平原の路**

**蟲鳴桑葉飛　　　　虫鳴きて 桑葉飛ぶ**

【語釈】

○河朔…河北省、山東省全域。○令弟…自分自身の従弟。○旄節…使臣や武将画素の印として持つ、羽毛で飾った旗指物。○布衣…布の衣。無位無官の者が着る。

喜晴　　　　　　　晴るるを喜ぶ　　　　　　　　　　　　　　　　李敬方

到台十二旬　　　　台に到りて 十二旬

一片雨中春　　　　一片 雨中の春

林果黃梅盡　　　　林果 黄梅尽き

山苗半夏新　　　　 なり

陽烏朝展翅　　　　 朝にを展べ

陰魄夜飛輪　　　　陰魄 夜 を飛ばす

**坐喜無雲物　　　　ながら喜ぶ** **雲物の無きを**

**分明見北辰　　　　分明に 北辰を見る**

【語釈】

○台…浙江省台州市。○半夏…薬草の名。カラスビシャク。○陽烏…太陽。○陰魄…月。○雲物…雲などの障害物。

茅山　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　杜荀鶴

步步入山門　　　　 山門にる

仙家鳥徑分　　　　仙家 分る

漁樵不到處　　　　 到らざる処

麋鹿自成羣　　　　 自ら群を成す

石面迸出水　　　　石面 水をし

松頭穿破雲　　　　松頭 雲をす

**道人星月下　　　　道人 星月の下**

**相次禮****茅君　　　　相次いで を礼**す

【語釈】

○茅山…江蘇省鎮江市にある山。○步步…一歩一歩。○仙家…仙人の住居。○鳥徑…鳥だけが通れるような細く険しい道。○漁樵…漁夫ときこり。隠者のイメージ。○麋鹿…鹿。○道人…道教の修行をする人。○茅君…仙の祖。

詠物

山中流泉　　　　　山中の流泉 　　　　　　　　　　　　　儲光羲

山中有流水　　　　山中に 流水有り

借問不知名　　　　すれども 名を知らず

映地爲天色　　　　地に映じて 天色を為し

飛空作雨聲　　　　空に飛びて 雨声を作す

轉來深澗滿　　　　転じ来りて に満ち

分出小池平　　　　分れ出ずれば 小池平かなり

恬澹無人見　　　　 人の見る無く

年年長自清　　　　 しえにら清し

【語釈】

○借問…人に尋ねる。○天色…天空の色。○深澗…深い渓。○恬澹…安静。

冷井　　　　　　　冷井 孫　欣

仙闈初鑿井　　　　 初めて井をつ

靈液沁成泉　　　　　して泉を成す

色湛青苔裏　　　　色はう 青苔の

寒凝紫綆邊　　　　寒は凝る の辺

銅瓶向影落　　　　 影に向って落ち

玉甃抱虛圓　　　　 虚を抱いてなり

永頼調神鼎　　　　永く頼って 神像をう

堯時奉萬年　　　　 万年を奉ず

【語釈】

○仙闈…宮中。○靈液…天上の露。○青苔…緑色の苔。○紫綆…紫色のつるべ縄。○銅瓶…銅製のつるべ瓶。○玉甃…玉のような石畳。○堯時…堯帝のとき、今の天下太平の世をなぞらえる。

僧舍小池　　　　　僧舎の小池 　　　　　　　　　　　　　　張　鼎

引出白雲根　　　　引いて白雲のより出で

潺潺漲蘚痕　　　　としてにる

冷光搖砌錫　　　　冷光 をがし

疎影露枝猿　　　　疎影 をわす

淨帶凋霜葉　　　　浄は 霜にむ葉を帯び

香通洗藥源　　　　香は 薬を洗うに通ず

貝多文字古　　　　 文字古りたり

宜向此中翻　　　　しく此の中に向ってすべし

【語釈】

○白雲根…石のこと。○潺潺…浅い水の流れるさま。さらさら。○蘚痕…苔の生ずるところ。○砌錫…みぎりにかけてある錫杖。○貝多…貝多羅樹の葉。インドでは、経文を書き付けるのに用いた。転じて仏典。○翻…仏典を翻訳する。

聞笛　　　　　　　笛を聞く 　　　　　　　　　　　　　　　　　戎　昱

入夜思歸切　　　　夜に入り 切なり

笛聲寒更哀　　　　 更にし

愁人不願聽　　　　愁人 聴くを願わず

自到枕邊來　　　　ら 枕辺に到り来る

風起塞雲斷　　　　風起こりて 断え

夜深關月開　　　　夜深くして 関月開く

平明獨惆悵　　　　平明 独りす

落盡一庭梅　　　　落ち尽す 一庭の梅

【語釈】

○思歸…故郷に帰りたいと思う気持ち。○枕前…枕元。○塞雲…寨に懸かる雲。○關月…関所（国境）に懸かる月、関山月。○平明…夜明け。○惆悵…嘆き悲しむ。

感秋林　　　　　　秋林に感ず　　　　　　　　　　　　　　　 姚　倫

試向東林望　　　　に に向って望む

方知節候殊　　　　に知る のなるを

亂聲千葉下　　　　乱声 下り

寒影一巢孤　　　　寒影 一巣孤なり

不蔽秋天雁　　　　秋天の雁をわず

驚飛夜月烏　　　　夜月の烏をす

霜風與春日　　　　霜風と春日と

幾度遣榮枯　　　　幾度か栄枯をる

【語釈】

○節候…季節時候。

杏花　　　　　　　杏花 　　　　　　　　　　　　　　　　　溫　憲

團雪上晴梢　　　　 に上り

紅明映碧寥　　　　紅明 に映ず

店香風起夜　　　　店はし 風起る夜

村白雨休朝　　　　村は白し 雨む朝

靜落猶聯蒂　　　　静かに落ちて 猶おに連なり

繁開正滿條　　　　繁く開きて 正にに満つ

澹然閑賞久　　　　として に賞する久し

無以破嬌嬈　　　　に似たるを んするともなし

【語釈】

○團雪…丸い雪（杏花）。○晴梢…晴れた日の梢。○紅明…赤い杏花。○碧寥…青天。店…酒屋、杏を植えて印とする。○蒂…花のほぞ。○澹然…余念の無いさま。○嬌嬈…董嬌嬈。美人の代名詞。

孤鴈　　　　　　　孤鴈 　　　　　　　　　　　　　　　　崔　塗

幾行歸塞盡　　　　か 塞に帰り尽く

念爾獨何之　　　　念う が独りにく

暮雨相呼疾　　　　暮雨　相い呼ぶことし

寒塘欲下遲　　　　 下らんと欲すること遅し

渚雲低暗度　　　　渚雲 低くして暗にり

關月冷相隨　　　　関月 にして相随う

未必逢矰繳　　　　未だ必しもに逢わず

孤飛自可疑　　　　孤飛 ら疑うべし

【語釈】

○塞…塞のある北方の地。○寒塘…冷たい隄。○渚雲…渚にかかる雲。○關月…国境の関にかかる月。○矰繳…矢に糸をつけて射るもの。

雨　　　　　　　　雨 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　僧皎然

片雨拂簷楹　　　　片雨 を払う

煩襟四坐清　　　　 四坐清し

霏微過麥隴　　　　として を過ぎ

蕭瑟傍莎城　　　　として にう

靜愛和花落　　　　静に愛す 花に和して落つるを

幽聞入竹聲　　　　に聞く 竹にる声

朝觀興無盡　　　　朝に観て 興 尽くること無し

高詠寄閑情　　　　高く詠じて 閑情を寄す

【語釈】

○片雨…局部的に降る雨。○簷楹…家屋の軒の柱。○煩襟…心の悶え。○霏微…雨や雪がしきりに降るさま。○麥隴…麦畑。○蕭瑟…物寂しいさま。○莎城…ハマスゲの茂る街。○閑情…もの静かな心。